

Ｃ群科目（外国語科目）に関する「学生授業アンケート」

報 告 書

2005年度

京都大学大学院人間・環境学研究科外国語教育再構造化委員会

京都大学高等教育研究開発推進機構

目 次

はじめに	1
1. 調査の概要	2
2. 各外国語の分析	4
英語	4
ドイツ語	19
フランス語	26
中国語	36
3. 外国語教育再構造化委員会 WG 活動記録（平成 17 年度）	48
おわりに	49

はじめに

われわれは2003年度末に一回生、2004年度末に単位未修得者を含まない二回生を、それぞれ対象として学生授業アンケートを実施してきたが、2005年度の学期始めには、第三弾として二回生以上の単位未修得者を対象とするアンケートを試みた。

年度末に行った最後のアンケート実施からほんの僅かしか時間が経過していなかったのに、担当者はずいぶん忙しい思いをしたが、こういうスケジュールになったのは、単位未修得者の大半を占める再履修者が、往々にして年度初め、あるいは学期はじめの数回のみ授業に出席し、その後は出て来ない傾向を考慮してのことであった。

単位未修得者の扱いは外国語によって異なる。既修外国語としての英語では、二回生以上の単位未修得者は新規の二回生受講者と完全に分離され、未修得者のみを対象として開かれるCALL(Computer-Assisted Language Learning)クラスもしくはCALL以外の単位未修得者用クラスを受講して単位を補充する。前者では専用のCD-ROMを全クラス共通の自学自習用統一教材として用い、履修学生の理解度、達成度を調べるテストを各セメスターに4回(平成17年度現在)行って単位が与えられるが、後者においては統一教材はなく、各クラスが個別のテキスト等を用い、一般的形態の授業を展開している。今回アンケートの対象としたのは、二回生以上の単位未修得者が必ずひとつは履修せねばならないCALLクラスの方である。

ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、イタリア語、スペイン語、朝鮮語、アラビア語などの初修外国語(今回アンケートを実施したのはこのうち、ドイツ語、フランス語、中国語の3外国語のみである)では、既修外国語の英語と異なり、初級・中級の区別があり、そのため初級クラスに合格しなかった学生は必ず再度初級クラスを履修して単位補充をせねばならない。その単位未修得者の扱いは言語によって対応が異なり、専用クラスが開設されている場合と、そうでない場合とがある。後者の場合には、正規の履修者と単位未修得者が同一クラスに混在して授業を受ける形となる。

本アンケートの目的は、言うまでもなく、外国語の単位未修得者の実態をできるだけ明らかにし、今後の授業運営改善のためのヒントを得ることである。単位未修得者はいかなる問題を抱えているのか、それは彼らの多くが共有する問題なのか、それとも個別的な問題なのか。

外国語能力の不足から単位未修得に陥る学生は当然多い。しかし原因はそれだけではない。受講上の心理的要因や物理的要因も考えられる。英語の単位未修得者用CALLクラスが、比較的高度な内容にもかかわらず、多くの学生が積極的に対応したのは、自学自習型であるという側面が大きいであろう。外国語の授業は、一般的には当たり前のことなのだが、他教科に比べると、いろいろ拘束要因、訓練的要因が大きい。それを必要以上に嫌う学生も本学には少なくないようである。

本アンケートが与える示唆は多種多様に亘る。これらが、前回および先々回のアンケート、さらには次回に予定している対教員アンケートとともに、本学における今後の外国語教育のより良い設計、運営に寄与するものと確信する。

今回も面倒な作業に協力してくださった教員、学生、担当事務方など関係各位に、委員一同厚く御礼申し上げる次第である。

平成19年1月
外国語教育再構造化委員会委員長

丹羽隆昭

1. 調査の概要

1) 実施時期

平成17年4月～平成17年5月

2) 実施対象

単位未修得学生対象の外国語科目クラス（通年科目，一部前期科目）

3) アンケート形式

今回の質問紙調査においては、外国語部会ごとに質問紙の作成と分析を行った。ただし、以下の三点を共通要素として含むこととした。

(a) 学生の自己評価

(b) 個々の授業の改善につながる質問

(c) 京都大学の外国語教育システムの改善につながる質問

なお使用したアンケート用紙は、各外国語科目の分析の末尾に添えられているので、そちらを参照していただきたい。

4) アンケート協力依頼文書の署名

アンケート協力依頼文書には外国語教育再構造化委員会委員長（外国語部会代表）名（一部外国語部会主任の署名）を付した。

平成17年4月15日

全学共通教育
外国語科目担当教員各位

京都大学人間・環境学研究科
外国語教育再構造化委員会
委員長（外国語部会代表）
丹羽 隆 昭

学生授業アンケート実施に関わるお願い

謹啓

満開の桜の下、今年も新学期が始まりました。先生方におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より本学の外国語教育活動に多大なご協力を賜り、まことにありがたく、厚く御礼申し上げます。

さて、先生方のご尽力を得て、本学の外国語教育も年々着実に改善されてきておりますが、今後のさらなる改善に向けて、私ども外国語各部会では、新学期早々でまことに恐縮ですが、学生による授業アンケートを実施することと致しました。今回は単位未修得者・再履修者の声を収録することを目的とし、それゆえに実施時期も学年終了時でなく、学年はじめとさせていただきます。

アンケートの実施方法は、できれば大型連休前の早い時期に、ご担当の授業クラスで、お手元にお届けしたアンケート用紙をクラスの全員に配布し、15分程度で回答させて下さい。実施後、用紙を回収し、所定の封筒に入れて、その日のうちに吉田南1号館の「授業準備室」（アンケート用紙回収箱を用意します）までお届け下さい。

このアンケートはあくまで今後の授業改善の資料とすべく行わせていただくもので、いかなる意味においても先生方の勤務評価につながるものではありません。学期初めでご多忙のところまことに恐縮ではございますが、ぜひともご協力賜りたく、お願い申し上げます。

敬 具

5) アンケートの実施

専任教員に対しては各部会が、非常勤教員に対しては本学高等教育研究開発推進機構がアンケート用紙を授業担当者に送付した。授業担当者は、授業時間内にアンケートを実施し、学生より直接回収した。

6) アンケートの集計（実施クラス数、回答学生数）

以下にアンケート実施クラス数、回答学生数を外国語ごとに示す。

	実施クラス数	回答学生数
英語	6	640
ドイツ語	12	175
フランス語	7	164
中国語	※	144
合計	—	1,123

※ 中国語は、再履修者クラスがなく1回生のクラス授業で履修のため無記入

7) アンケートの分析

外国語各部会のアンケート委員（49頁参照）が、集計結果に基づき分析を行った。

2. 各外国語の分析

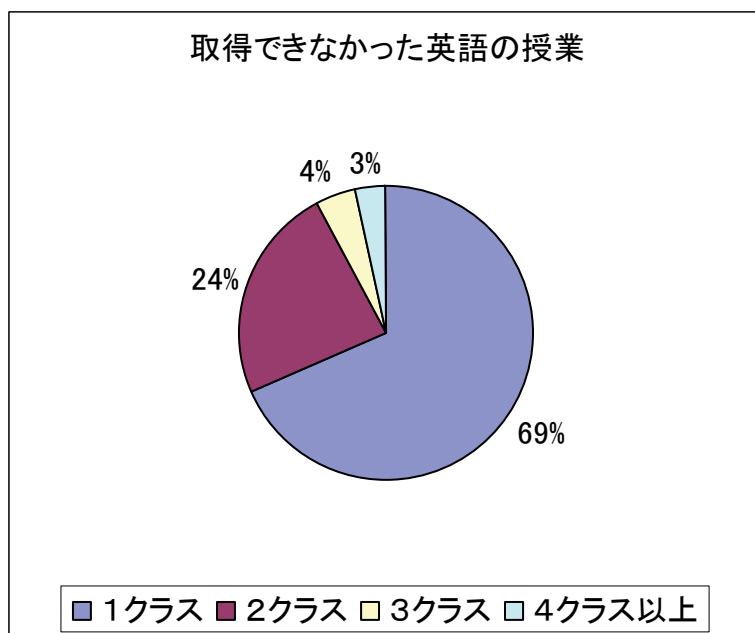
英語

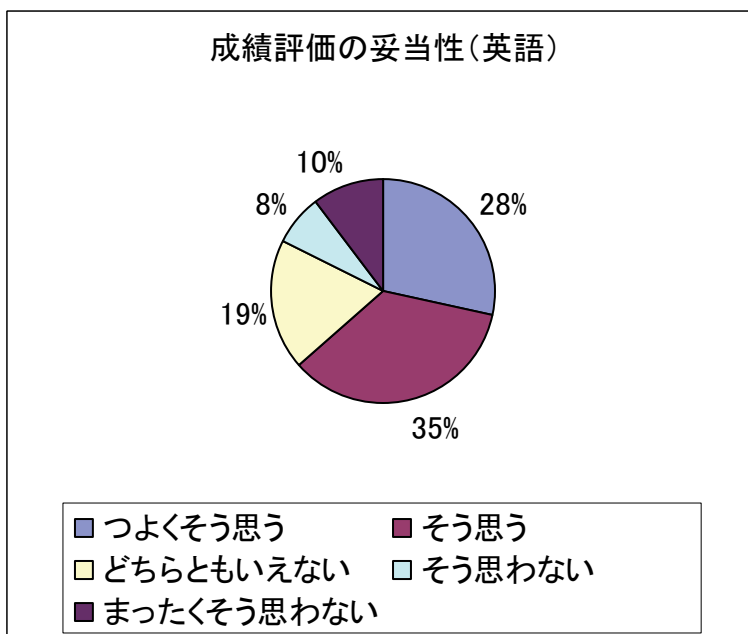
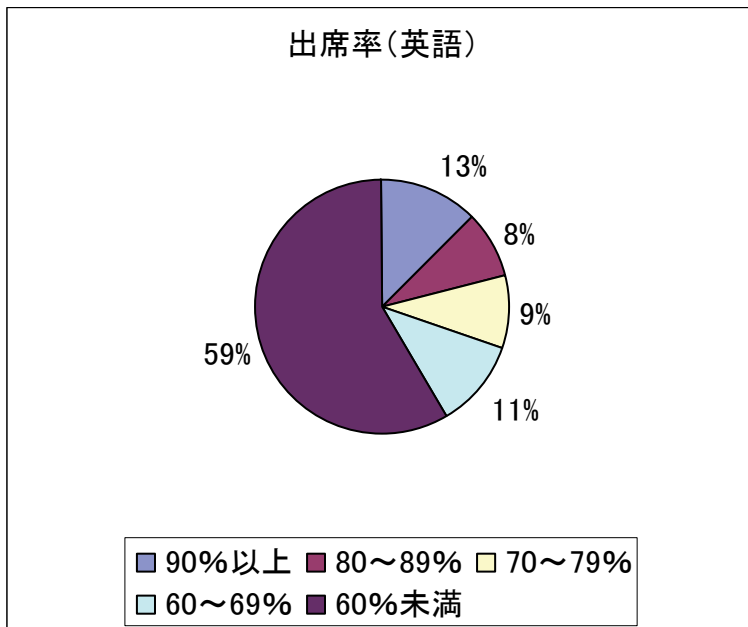
英語に関するアンケート結果を、以下の順に報告する。

1. 集計の結果（円グラフ）
2. 学生の声（授業についての感想，意見など）
3. まとめ
4. アンケート用紙

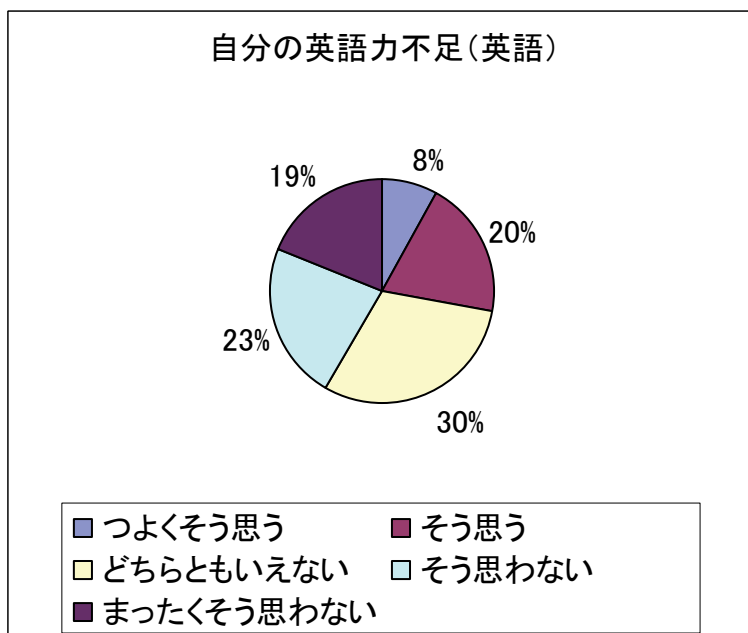
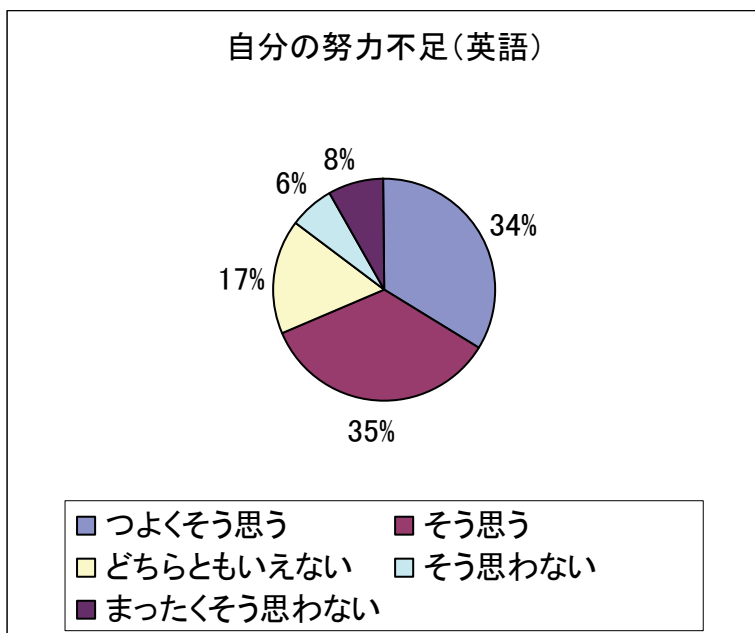
1. 集計の結果

以下にアンケート用紙 Form A の質問から得られたデータを円グラフとして示す（所属学部，学年，昨年度の単位未修得クラス数・授業科目名，授業出席率，成績評価の妥当性，単位未修得の原因(a)-(i)など）。



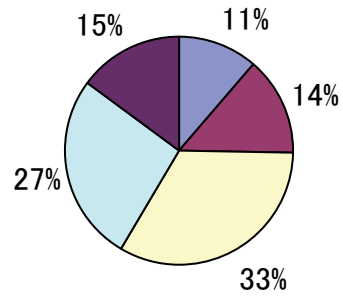


不可とされた成績評価を概ね妥当とするものが 63%であるのに対して、授業への出席が 60%未満であるものの割合が 59%とほぼ一致するところから、授業への出席が成績評価において重視されるという認識が学生の中には定着していることが予想される。問題は、そういった認識があるにもかかわらず、なぜ出席率が低いのかの原因を見極めることであろう。



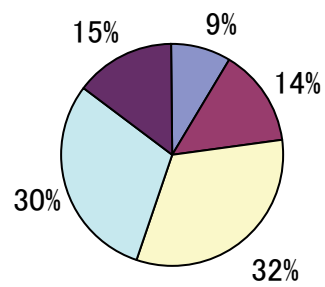
英語力不足を自覚するものが 28%に過ぎない一方で、努力不足を率直に認めるものがほぼ7割に及ぶという結果は、出席率の低いものが6割であったことを勘案すれば、授業に対応し単位を取得する力量はあるが、何らかの理由で出席に至らないものが多いということであろう。その理由を次において探してみる。

授業の進め方の工夫(英語)



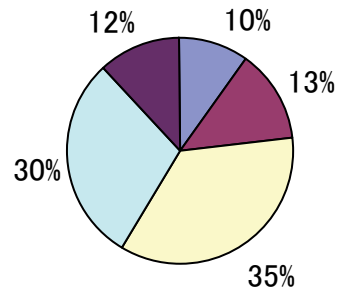
- | | |
|--------------|----------|
| ■ つよく思う | ■ 思う |
| ■ どちらともいえない | ■ そう思わない |
| ■ まったくそう思わない | |

授業に対する熱意(英語)



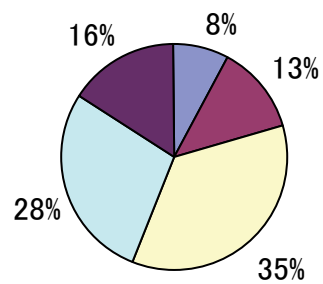
- | | |
|--------------|----------|
| ■ つよく思う | ■ 思う |
| ■ どちらともいえない | ■ そう思わない |
| ■ まったくそう思わない | |

教材の適切性(英語)



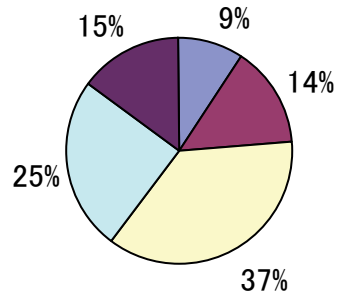
- | | |
|--------------|----------|
| ■ つよく思う | ■ 思う |
| ■ どちらともいえない | ■ そう思わない |
| ■ まったくそう思わない | |

テストの難易度の高さ(英語)



- | | |
|--------------|----------|
| ■ つよく思う | ■ 思う |
| ■ どちらともいえない | ■ そう思わない |
| ■ まったくそう思わない | |

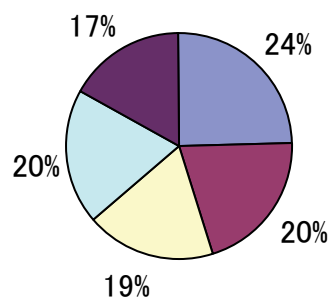
クラスの雰囲気が合わない(英語)



- つよく思う
- そう思う
- どちらともいえない
- そう思わない
- まったくそう思わない

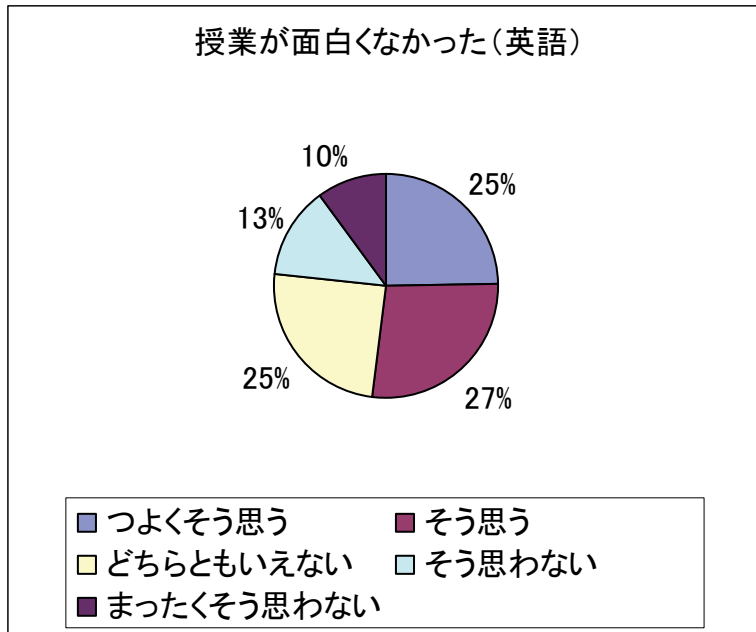
教員の授業に対して不満を訴えるものは平均してほぼ2割という上記の結果から判断して、授業を担当する教員との折り合いが悪いということが大きな原因であったとは考えにくい。また、クラス編成に際立った問題があるとも思われない。

アルバイト等が忙しかった(英語)



- つよく思う
- そう思う
- どちらともいえない
- そう思わない
- まったくそう思わない

この結果は授業自体の問題というよりも個人的な事情、大学生活全般に関わる原因を示唆しているが、同時に次のアンケート結果は重く受け止めなければなるまい。



授業についていくことができないわけではなく、また個別の教員による個別の授業内容に対してとりわけ不満があるわけではないが、授業に駆り立てるなにもものかを感じ取れずに、つい、生活の必要からバイトへと足が向く、といった学生の姿を思い描くことができるであろう。これは単に英語教育に固有の現象というよりも、現在の大学教育全体が抱える根本問題に関わるもので、ここでは、外国語教育がこの問いに具体的にどう向き合うか、その対処法を模索することを念頭に置きながら報告をまとめたい。

2. 学生の声

以下の各項目について、学生からの意見のうち代表的なものを挙げる。

1) 昨年度単位を修得できなかった(あるいはしなかった)授業への感想：

その授業についての感想、意見など(例：教材の内容、難易度、使い方；教員の情熱や指導の仕方などについて)

- ・授業をとっていない。
- ・登録できなくて授業うけませんでした。
- ・登録の仕方が分からなかった。
- ・事前登録した後、本登録ができていなかったのとれなかった。そんなめんどいことはしないでほしい。
- ・登録ミスでした……。というより予備登録の日程を全く知りませんでした。まさか冬休み中にあるとは思わず……。KULASIS に登録してあるメールアドレスの PC が故障中だったので。

- ・ 事前の抽選をしらなかった。

意外と、こういった意見は多い。他の全学共通科目とも登録の仕方が異なり、特に再履修科目については、英語に特有の手続きもあるわけであるから、ともかくも、システムを周知徹底させることに更なる努力を傾注することが必要であろう。

- ・ 曜時限があわなかった。
- ・ 他の授業の時間上、履修登録しませんでした。
- ・ アルバイトや専門科目で忙しかった。また、再履修クラスの時間割がうまくあわなかった。
- ・ アルバイトや課外活動が忙しかった。
- ・ サークル活動が異常に忙しくなってしまった。登録し忘れた。

学生生活全体の中での授業（特に全学共通科目）の位置が、その重要度においてあまり高くない学生がいることが伺われる。履修前においてすでに学生の履修意欲があまり高くないとすれば、それを低減させないためにはどのような工夫が可能であろうか。ひとつのヒントになる意見は、

- ・ 予備登録に4回連続で落とされました。十分な数の授業がないと思います。
- ・ 抽選で最後まで残ってネイティブの先生にあたってしまって、第1回目の授業で何を言ってるのかまったく分からなかったのであきらめた。

授業を、一定数確保すると同時に、各曜日各時限に均等に配分することで希望通りに受講できるよう工夫することが考えられるが、これとても、学生の要望が各時限に均等に分布するとは限らず、年ごとにばらつきがあることも十分に考えられるので、効率が良い対策とは言えない。あるいは、専門科目との思い切った調整が可能であるとすれば、たとえば、月、水、金曜日のそれぞれ5限目は語学のための時間とし、その曜時限は専門科目を極力控えていただくとした上で、英語の科目をここに集中的に開くことで、他の曜時限での希望の集中を解消し履修を容易にするということも考えられる。更なる工夫に加えて、全学的な理解と協力が不可欠であろう。

- ・ 単位をとるための課題(宿題やレポート)が厳しすぎた。
- ・ 皆、英語がある程度の力があると仮定して授業を行っていた。入試で合格させたのだから、責任をもって落ちこぼれにも目をかけてほしい。
- ・ 中・高とリスニングを集中的に取り扱っている授業がなく聞くことに慣れていない

私にとっては、リスニング能力を必要とするテストは不利でした。自分でリスニングの教材を買って努力しろといわれたらそれまでですが・・・。

- ・ 教員の熱意はよかった。しかし難しい。
- ・ 課題提出が多すぎた。
- ・ むずかしすぎる。教員の熱意→ありすぎだ。
- ・ 教員に変質者が多すぎる。気分を害する。
- ・ 教員がきらいだった。
- ・ 教員の熱意はあったが、求められている Level が高かったような・・・。

教員と人格的に、あるいは教育目標について、意見が合わないことは十分にあり得ることである。教員それぞれの個性が自由に発揮される授業は本学の特徴であり、むしろ強みとされるべきものであるが、一方で、それ故の摩擦もまた大きいといわなければならない。問題は、教員の個性の強さや多様さにあるのではなく、合わない場合の逃げ道、選択肢が用意されていないことであろう。その意味で、一回生において現在採用されているクラス指定（通年）を、二回生以上のクラスと同様の自由選択制に移行する可能性について、本格的に議論をする必要性があると思われる。まずは、全学的にセメスター制となっていることを活用し、入学時前期はクラス指定を残すにしても、後期からは選択制とすることが現実的提案として検討されるべきであろう。

その他、目に付いた意見を列挙する。

- ・ 平常点を全く加味しない授業だったので授業にでる気がしなかった。
- ・ CALL 教材はすばらしいが、テストの形式が不満。
- ・ 英語で別の科目をするのは英語講義であって英語の授業ではない。英語の授業をしてほしかった。
- ・ 教材が自宅学習に向いてなかった。予習・復習ができない。
- ・ 最後の授業だけ出られなかったのですが、その時突然レポート課題が出てそのことを知らなかったという事が起こったので、最初に言った通りにしてもらいたかったと思います。

学生への説明責任が問われている。懇切丁寧な指導を心掛けるべきであろう。

- ・ 教員の熱意に応えられず申し訳なかった。

同時に、教員もまた、学生の熱意に応える授業を行うべく、不断の努力が求められている。

2) 外国語教育制度全体についての感想：

(履修期間，教室・教育設備，クラス編成，必修・自由選択など)

圧倒的に多い意見が、一回生のクラス指定を選択制にすることに関する要望である。

- ・ 1回生でも選択できるようにしてほしい。
- ・ 1回生から自由選択制を導入してほしい。クラス配当の英語の授業は多分出席していれば単位を取得できたと思うが、最初の段階でレベル的についていけない。教員の方と合わないなど苦手意識が芽生えて出席しなくなった。自分の興味・レベルに合わせて選択できたら少しは違ったのではないかと思う。
- ・ 1回生のときに英語のクラスを選択できないのが残念。
- ・ 1年次の語学が通年というのが不可解。またクラス指定されて自分に都合のよい時間を選択できないのも問題がある。
- ・ 自由選択にしてください。
- ・ 自分に興味のある授業を自由に選べる方がよい。
- ・ 1回生からでも実際の授業風景などの見学をしてからの自由選択制度にしてほしい。
- ・ 1年次にもう少し選択があっても良い。教員によって違いすぎる。
- ・ 1回生から授業の選択が可能になるようにしてほしい。自分で選んだ授業なら全てに責任をとれるし興味あることも学べる。
- ・ 全部自由選択に。
- ・ リスニングがつくようなものがない。クラス指定はやめて1回から自分で時限を選ばせて欲しい。
- ・ もっと自由選択にして、おもしろそうな授業をしそうな教員の所にいきたい。
- ・ クラス指定でなく、履修人数制限付きの自由選択としてほしい。
- ・ 必修，自由選択→もっとフリーにしてほしい。
- ・ 自由選択のより詳細な授業内容の説明。
- ・ 授業内容に格差があるならば全て自由選択にすべきだ。
- ・ 教員によって授業内容が違いすぎるので、クラス指定などによって自分と相性の悪い教員にあたる。またはつまらない授業を受けざるを得ないのは間違っている。
- ・ クラス指定はやめてほしい。1年次から CALL が使えるようにしてほしい。

学生が、興味の多様化に従い、自由な時間割の編成を希望する一方で、京都大学は授業の内容に関しては教員の個性を生かすことを重視していることが、ときに大きな軋轢を生んでいることが前項のアンケート結果からも伺えたが、制度上の要望も自由選択制

への移行を強く志向している。その理由として挙げられているものの中で、特に学生が不満であると思われるのが、

- ・ 難易度のバラツキが大きすぎる気がします。
- ・ クラスによって難易度がちがすぎる。
- ・ クラスによる難易度の差をなるべくなくしてほしい。

学生の間で、語学力について、相当の格差があることが推測できるが、クラス編成上、習熟度の違いに対する配慮が必要な段階であるか、慎重に見極めることが必要であろう。

同時に、現在通年であるものを半期ごとの開講にするように求める意見も比較的多い。

- ・ 1回生の語学も半期毎に成績評価してほしい。
- ・ 通年だと前期にあまり授業にでていないと分からないことが多くて、後期に出にくいので半期ずつにしてほしいです。
- ・ 全部セメスターで区切ってもらえるとうれしい。

前項で指摘した、一回生クラスの選択制への移行の必要性が、具体的に検討されるべきであろう。

また、登録制度についても意見が多く寄せられている。

- ・ 予備登録のシステムがよく分かりません。何とかしてください。
- ・ 履修のシステムがわかりにくい。
- ・ 予備登録が面倒。受たい授業が取れない。
- ・ 予備登録の前に授業を一度聞いてみる機会がほしいです。
- ・ 履修登録・・・(教員によって「当たり・ハズレ」があるため) 一般教養科目のようなお試し期間なしに予備登録をせよと言われても正直困る。

より一層の簡素化に努力すべきであろう。

その他、改善のヒントとなると思われる意見を列挙する。

- ・ 英語はもっと簡単にして少人数のクラスを増やしても良いと思う。例えば6限もありではないだろうか。
- ・ CALLに関して、今期から試験が全て水6限になったので、システム上難しいかもしれないが、水6限として、普通の受講時(私の場合月5限)には、他の授業を履修できるようにしてほしい。
- ・ 何故半期で1単位なのかわからない。他と同様2単位では何故だめなのか。

- ・ 根本的な疑問。なぜ一期一単位なのか？負担は専門より大きいと思うんですが…。
- ・ 抽選に全てはずれたので、選べる授業が少ししかなく、気のすまない授業を取らざるをえなかった。最初の方は授業に出たが、結局いやになってやめた。
- ・ CALL というシステムはとてもよいと思う。このシステムを続けていくべきだと思う。
- ・ 複数の CALL 授業をとれるようにしてほしい。
- ・ 必修でなくしてほしい。

これらの意見を参考に、現状に甘んじることなく、絶えざる見直しによる具体的改善策を確実に推し進めていくことが求められている。

最後に、

- ・ 学生の勉学意欲をいかに喚起させるかが大きいと思います。

この要望に対しては、自由の学風の伝統を生かし、教員の個性によって応えようというのが京都大学全体の戦略の要にあるものの一つであるとするならば、一方で、学生においてもまた、他ならぬその自由の学風を享受し、伸びやかに勉学に取り組めることを最大限保証するシステムを整えていくことが、同時に、不可欠なことであると思われる。

3. まとめ

単位未修得者に対する単位習得のための制度的補完は、基本的に、履修制度本体そのものの持つ問題点の補完にほかならないという基本的認識がまず必要である。単位未修得の原因を安易に未修得者本人に帰することがあってはならない。そのことは制度の持つ問題点を看過し、改革の契機を逸することに他ならないからである。むしろ、単位未修得者の存在は制度全般に対する警鐘であり、その声は改善への糸口を示唆するものとして捉えるべきであろう。

このような観点から、本学の英語教育における再履修制度を検討すると、そのシステムには、限られた開講コマ数、その他の制約にもかかわらず、優れた特徴が備わっていることが理解できる。中でも特記すべきは、複数の未修得単位を抱える学生に対して、2回生専用クラスにおいても導入されている選択制度を活用することで、絶えず学生の興味を喚起するシステムを並設していることである。少数の例外者を例外として排除するのではなく、その要望に対処することに意を用いることは、多様化する学生に対応する柔軟な教育制度のあり方として、今後も更なる工夫が求められる重要な課題の一つであると思われる。

4. アンケート用紙 (依頼文)

2005.04.15

(Form A)

平成 17 年度「英語授業アンケート」

京都大学大学院人間・環境学研究科

英語部会

このアンケートは、英語の授業改善を目的として行うものです。皆さんの意見は、今後の授業に活かされますので、率直にお答えください。なお、本アンケートの結果が皆さんの成績に影響することは一切ありません。

1) 所属学部：

- 1. 総合人間学部 2. 文学部 3. 教育学部 4. 法学部 5. 経済学部
- 6. 理学部 7. 医学部 8. 薬学部 9. 工学部 10. 農学部

2) 学年：

- 1. 2 回生 2. 3 回生 3. 4 回生以上

3) (a) 受講曜時限： _____ 曜日 _____ 時限

(b) 授業科目名：

4) 昨年度単位を修得できなかった英語の授業はいくつですか。

- 1. なし 2. 1 クラス 3. 2 クラス 4. 3 クラス 5. 4 クラス以上

5) 昨年度単位を修得できなかった授業はどれですか (複数回答可)。

- 1. なし
- 2. 英語 1 回生用 E11 (L/S)
- 3. 英語 1 回生用 E12 (R/W)
- 4. 英語 2 回生用 E2GA (前期)
- 5. 英語 2 回生用 E2GB (後期)
- 6. 英語 2 回生用 E2WA (前期)
- 7. 英語 2 回生用 E2WB (後期)
- 8. 英語単位未修得者用 E2CA (CALL 前期)
- 9. 英語単位未修得者用 E2CB (CALL 後期)
- 10. 英語単位未修得者用 E2SA (非 CALL 前期)
- 11. 英語単位未修得者用 E2SB (非 CALL 後期)

6) 昨年度単位を修得できなかった英語の授業について、該当するものをそれぞれ 1 つ選んで番号に○をつけてください (2 クラス以上未修得の場合はそのうち 1 つを任意に選んで答えてください。未修得のクラスがなかった人は記入の必要はありません)。

(1) その授業には、どのくらい出席しましたか。

90%以上	80~89%	70~79%	60~69%	60%未満
5	4	3	2	1

(2) 成績評価は妥当であったと思いますか。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(3) その授業の単位を修得できなかった原因についてどのように思いますか。(それぞれについて教えてください。)

(a)自分の努力が足りなかった。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(b)自分の英語力が足りなかった。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(c)担当教員の授業の進め方に工夫が見られなかった。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(d)担当教員の授業に対する熱意が感じられなかった。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(e)教材が適切でなかった。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(f)テスト(あるいはレポート課題)の難易度が高すぎた。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(g)自分にとって授業が面白くなかった。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(h)クラスの雰囲気合わなかった。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(i)アルバイトや課外活動で忙しかった。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

2005.04.15

(Form B)

平成 17 年度「英語授業アンケート」

京都大学大学院人間・環境学研究科

英語部会

このアンケートは、英語の授業改善を目的として行うものです。皆さんの意見は、今後の授業に活かされますので、率直にお答えください。なお、本アンケートの結果が皆さんの成績に影響することは一切ありません。

1) 所属学部：

1. 総合人間学部 2. 文学部 3. 教育学部 4. 法学部 5. 経済学部
6. 理学部 7. 医学部 8. 薬学部 9. 工学部 10. 農学部

2) 学年：

1. 2回生 2. 3回生 3. 4回生以上

3) (a) 受講曜時限： _____ 曜日 _____ 時限

 (b) 授業科目名：

4) 昨年度単位を修得できなかった（あるいはしなかった）授業への感想：その授業について感想や意見を自由に述べてください。

なお、次の項目を参考にしても結構です。

- ・教材の内容、難易度、使い方 ・教員の熱意、指導の仕方

5) 外国語教育制度全体についての感想：この授業に限定せず、外国語教育全般について感想や要望を自由に述べてください。

なお、次の項目を参考にしても結構です。

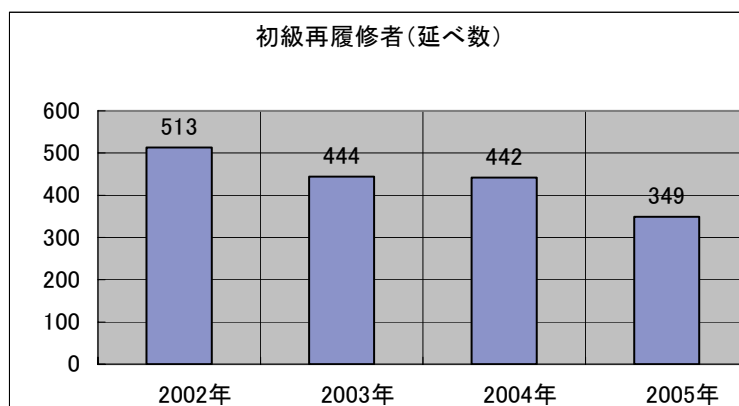
- ・履修期間 ・教室、教育設備 ・クラス編成 ・必修、自由選択

(必要があれば、この用紙の裏面も使ってください。)

ドイツ語

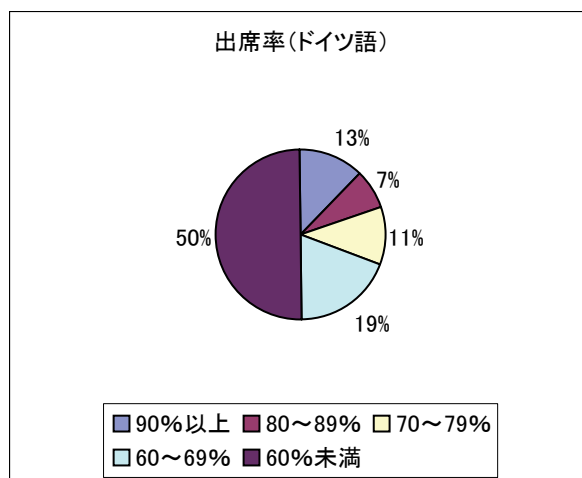
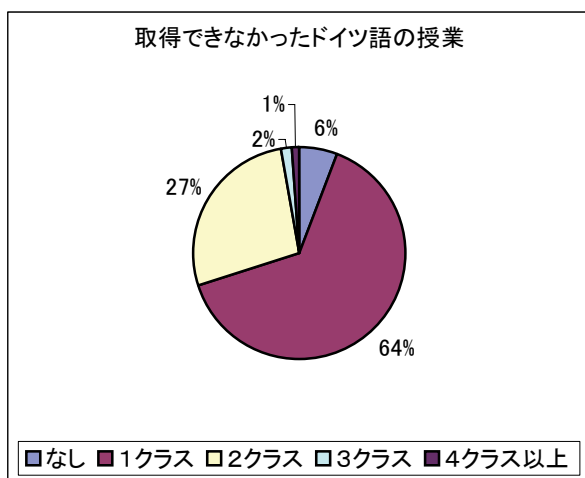
アンケート結果を示す前に、まず今回のアンケートの対象となった今年のドイツ語再履修者数（延べ数）と、その近年の変化を見ておきたい。

今年の再履修クラス受講者（延べ数）：349名
今回のアンケートの回答者：175名



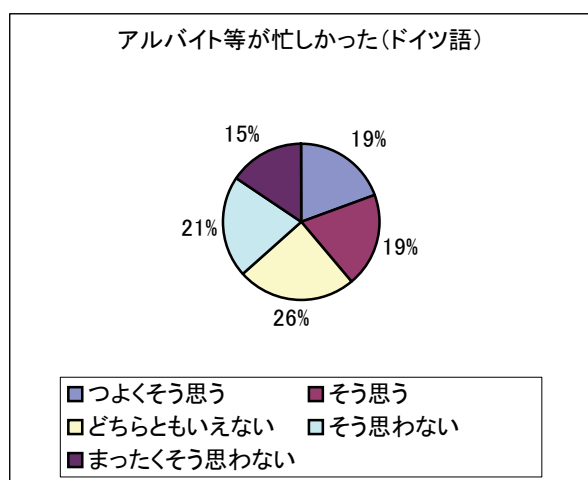
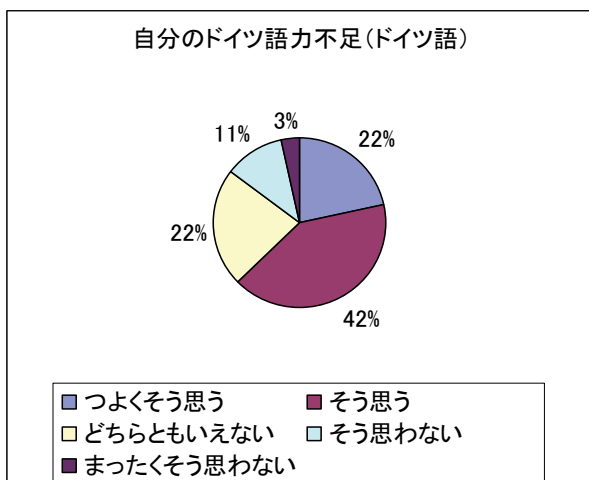
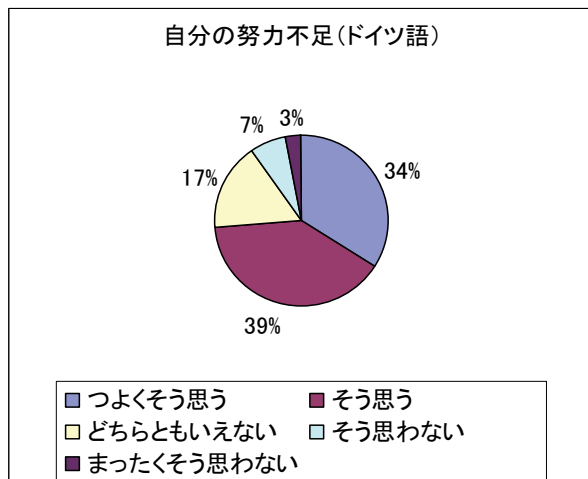
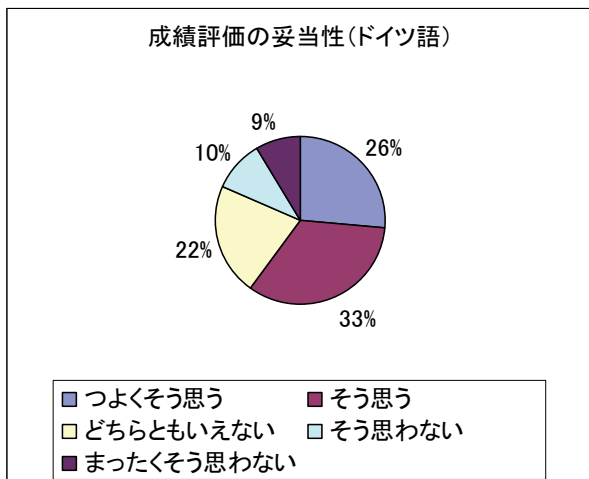
近年のドイツ語においては、初級履修者が増加しているにもかかわらず、再履修者は減少している。

1. 集計の結果



初級を2クラスとも取得できなかった学生が27%という結果は、他の外国語と比べても少ない方であり、学習効果がほとんどない学生が比較的少ない、というふうと考えていいであろう。これは、冒頭に示しておいた近年のドイツ語再履修者の減少というデータとも一致する。以下の「2. 学生の声」でも見るように、特に初修外国語の難しさや負担に対する不満が少ない現状において、このような結果は、とりあえず好ましいものと思われる。

一方、出席率は60%未満が過半数を占める状態で、1回生クラスや中級クラスと比べて非常に悪い。再履修クラスの授業形態を再検討すべき時期が来ているのかもしれない。たとえば、出席率が低いのは初級授業と大同小異の内容だからで、とするなら、直接授業する時間をもっと減らし、その代わりにティーチング・アシスタントやCALLを活用しつつテストを頻繁に実施するなどの工夫が必要であろう。英語がすでに再履修のCALL授業を実施しているが、学習効果の点でも、また教員の負担が限られている現状から言っても、検討に値すると思われる。

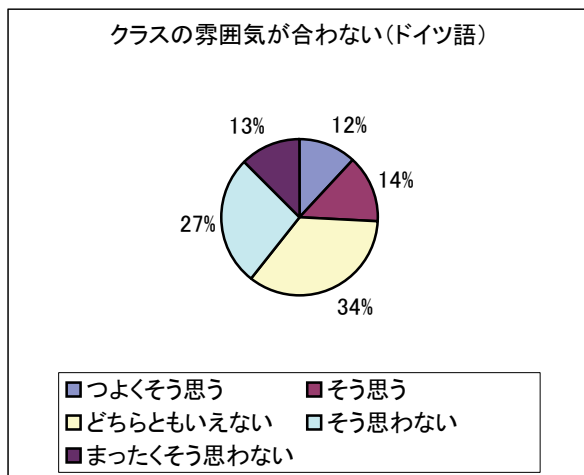
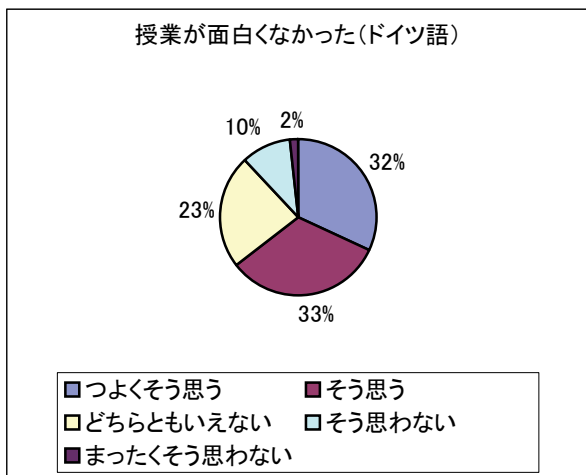
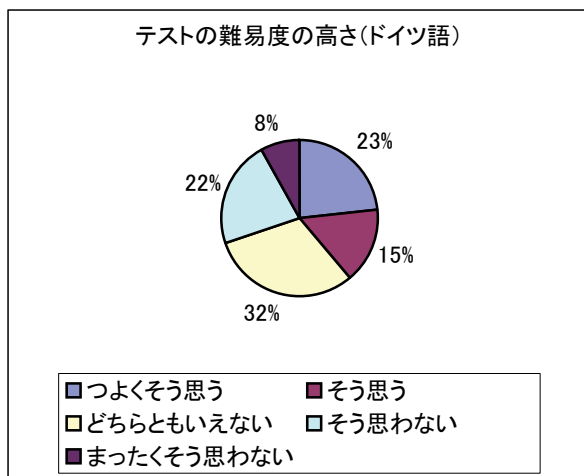
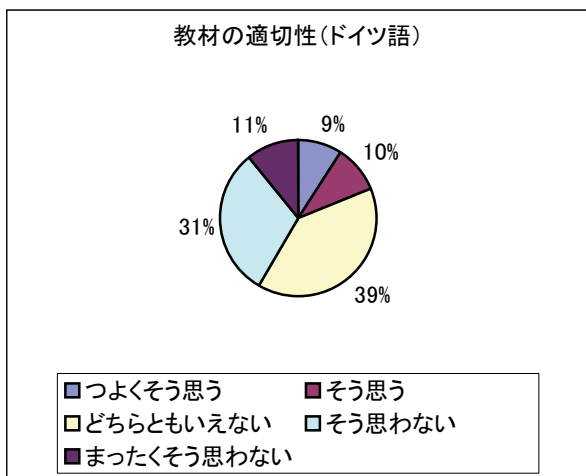
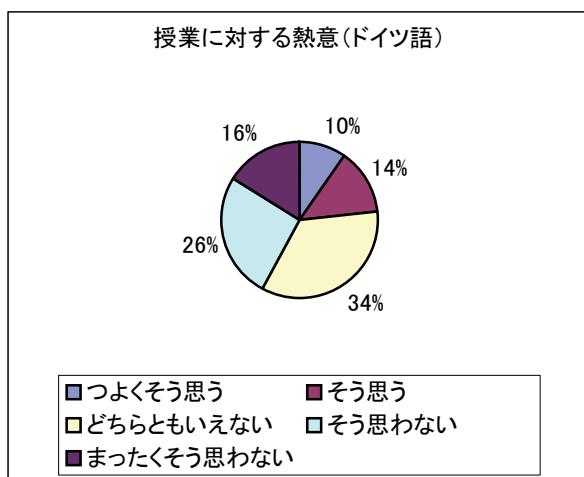
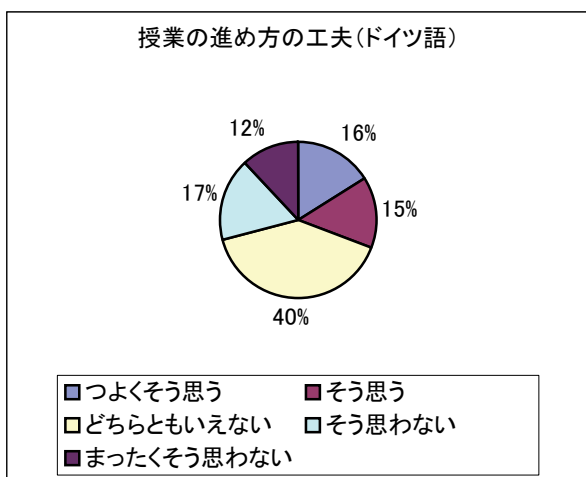


成績評価の妥当性に対して積極的な異議を感じている学生(「そう思わない」「まったくそう思わない」)が約2割(19%)存在するというのは、微妙な数字である。その程度の異議は当然でありあまり憂慮する必要がないのか、あるいは、評価に対する大きな不信ないし不満が存在するとして深刻に考えるべきか、評価の分かれるところであるが、少なくとも無視できない数の学生が積極的な異議を感じているのであり、基準の明確化等、さらなる配慮が必要であると思われる。

単位未修得の原因としては、「力不足」を積極的に認めている学生が3分の2ほどを占めており(同じ初修外国語のフランス語もほぼ同じ)、これは既修外国語である英語のほぼ2倍である。「力不足」を認めているのであるから、「評価の妥当性」という意味では好ましい結果と言えるが、一方で当該語学の力不足を露呈してもおり、初修外国語の難しさ示す数字である。

また、「努力不足」を認めている学生は73%とさらに多いが、フランス語の81%よりは1割近く少ない。ドイツ語再履修者が、フランス語ほどは学習方法と目標を明確化できていないということだと考えられる。

単位未修得の原因として「アルバイト等が忙しかった」を挙げている割合は、どの語学もよく似た結果であるが、決して少なくはない数字である。



上記六つは、単位未修得の原因に関しておもに教師の側の問題についての設問の結果であるが、前ページの学生自身の問題を聞いた結果と比べると、「つよくそう思う」「そう思う」「どちらともいえない」等の合計が概して6割程度減っており、教師よりも自分たち自身に原因があると考えている学生が顕著に多いことがわかる。ただし、この差はフランス語ではさらに顕著であり、授業の進め方や教材の工夫、熱意の点で、教師の方がさらに努力する余地があるであろう。

しかし一方、「授業が面白くなかった」の問いに対しては、それを否定していない学生が9割近くも存在し、教師や教材にそれほど不満がないにもかかわらず、結果的に授業が魅力的なものになっていないことがわかる。この点で英語の結果はそれほど多くないので、やはり初修外国語ゆえの難しさと関係があると思われる。これは、「テストの難易度が高かった」を肯定している学生が、英語の場合ずっと少ない（フランス語は英語の2倍以上で、ドイツ語は両者の中間）という結果からも推測できる。

2. 学生の声

- 1) 昨年度単位を修得できなかった（あるいはしなかった）授業への感想
一番多かった感想は：「難易度が高い」「難しい」という難しさに対するものである。
「ドイツ語に費やす時間負担が大きすぎる」
「予習復習時間は他の科目よりずっと長いのに単位数は1というのはおかしいと思う」
などという悲鳴に近い「声」もあった。
教師の熱意や態度に対する不満も少なくなかったが：
「声が小さくいやみ」
「教え方が最悪、常に怒っていた」
「英作さえ微妙にできなさそうな文の独作はいじめとしか考えられない」
などという、感情的な反発も目立った。
- 2) 外国語教育制度全体についての感想
「セメスターにしてほしい」「最初につまずいたら1年を棒にふるってしまう」
などの「通年」授業に対する意見が非常に多かった。
最後に、次のような、対立する意見を併記しておきたい。両者は、一見正反対のように見えるし、実際またそうでもあるが、外国語履修の困難と負担の大きさに対する実感としては共通していると思われる。
「語学はとる必要なし。これで、系登録に支障をきたすなんて意味がない。これで、卒業できないなんて意味がわからない」「第2外国語の履修期間は全然足りないと思う」

3. まとめ

外国語履修、特に初修外国語の困難と負担の大きさが、さまざまの形で現れており、これは過去2回のアンケートでも見られた点であるが、今回は再履修者が対象であるために、いっそう目立って現れてきている。基本的に地味な日頃のこつこつとした努力の必要とされる外国語学習の強い負担の大きさと、それによって獲得されるものの魅力や必要性の間に、学生はかなりの隔たりを感じていることが、今回のアンケートでさら明確になったと言わねばならない。また、教師の態度に対する回答がそれほど悪くない（「授業に対する熱意」や「教材の適切性」のアンケート）にもかかわらず、「授業が面白くなかった」ことを否定していない学生が9割近くも存在するという結果は、外国語の魅力と必要性をアピールすることによって知的好奇心をかきたてることはもちろん、もっと単純な意味でも「授業が面白く」する、さまざまな意味でのサービス精神が、システム・施設・教員のすべてに渡って必要なことを示しているように思われる。

そういう中で、過去のアンケート報告書でも言及した点であるが、外国語すべてのクラスをセメスターにしてほしいという要望が非常に多いのが目に付く。基本的にセメスター制の京都大学において、しかも同じ外国語でも中級はセメスター制の中で初級だけ通年というのは整合性の点からも好ましくないであろう。教員側の負担や体制の面でクリアしなければならない問題も多いが、個人的には、ぜひ早期に実現したい要望だと考える。

(Form A)

平成 17 年度「ドイツ語授業アンケート」

京都大学大学院人間・環境学研究所

ドイツ語部会

このアンケートは、ドイツ語の授業改善を目的として行うものです。皆さんの意見は、今後の授業に活かされますので、率直にお答えください。なお、本アンケートの結果が皆さんの成績に影響することは一切ありません。

1) 所属学部：

- | | | | |
|-----------|---------|---------|--------|
| 1. 総合人間学部 | 2. 文学部 | 3. 教育学部 | 4. 法学部 |
| 5. 経済学部 | 6. 理学部 | 7. 医学部 | 8. 薬学部 |
| 9. 工学部 | 10. 農学部 | | |

2) 学年：

- | | | |
|---------|---------|-----------|
| 1. 2 回生 | 2. 3 回生 | 3. 4 回生以上 |
|---------|---------|-----------|

3) (a) 受講曜時限： _____ 曜日 _____ 時限

(b) 授業科目名：

4) 昨年度単位を修得できなかったドイツ語の授業はいくつですか。

- | | | | | |
|-------|----------|----------|----------|------------|
| 1. なし | 2. 1 クラス | 3. 2 クラス | 4. 3 クラス | 5. 4 クラス以上 |
|-------|----------|----------|----------|------------|

5) 昨年度単位を修得できなかった授業はどれですか（複数回答可）。

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. なし | 2. ドイツ語初級（文法） |
| 3. ドイツ語初級（実習） | 4. ドイツ語初級（応用） |
| 5. ドイツ語中級（前期） | 6. ドイツ語中級（後期） |
| 7. ドイツ語上級（前期） | 8. ドイツ語上級（後期） |
| 9. ドイツ語再履修（文法） | 10. ドイツ語再履修（実習） |

6) 昨年度単位を修得できなかったドイツ語の授業について、該当するものをそれぞれ 1 つ選んで番号に○をつけてください（2 クラス以上未修得の場合はそのうち 1 つを任意に選んで答えてください。未修得のクラスがなかった人は記入の必要はありません）。

(1) その授業には、どのくらい出席しましたか。

90%以上	80~89%	70~79%	60~69%	60%未満
5	4	3	2	1

(2) 成績評価は妥当であったと思いますか。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(3) その授業の単位を修得できなかった原因についてどのように思いますか。（それぞれについて教えてください。）

(a) 自分の努力が足りなかった。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(b) 自分のドイツ語力が足りなかった。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(c)担当教員の授業の進め方に工夫が見られなかった。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(d)担当教員の授業に対する熱意が感じられなかった。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(e)教材が適切でなかった。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(f)テスト（あるいはレポート課題）の難易度が高すぎた。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(g)自分にとって授業が面白くなかった。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(h)クラスの雰囲気が合わなかった。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(i)アルバイトや課外活動で忙しかった。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(Form B)

平成 17 年度「ドイツ語授業アンケート」

京都大学大学院人間・環境学研究科
ドイツ語部会

このアンケートは、ドイツ語の授業改善を目的として行うものです。皆さんの意見は、今後の授業に活かされますので、率直にお答えください。なお、本アンケートの結果が皆さんの成績に影響することは一切ありません。

1) 所属学部 :

- | | | | |
|-----------|---------|---------|--------|
| 1. 総合人間学部 | 2. 文学部 | 3. 教育学部 | 4. 法学部 |
| 5. 経済学部 | 6. 理学部 | 7. 医学部 | 8. 薬学部 |
| 9. 工学部 | 10. 農学部 | | |

2) 学年 :

- | | | |
|---------|---------|-----------|
| 1. 2 回生 | 2. 3 回生 | 3. 4 回生以上 |
|---------|---------|-----------|

3) (a) 受講曜時限 : _____ 曜日 _____ 時限

(b) 授業科目名 :

4) 昨年度単位を修得できなかった(あるいはしなかった)授業への感想: その授業について感想や意見を下記の項目を参考にして自由に述べてください。

- ・ 教材の内容, 難易度, 使い方
- ・ 教員の熱意, 指導の仕方
- ・ その他

5) 外国語教育制度全体についての感想: この授業に限定せず, 外国語教育全般について感想や要望を下記の項目を参考にして自由に述べてください。

- ・ 履修期間
- ・ 教室, 教育設備
- ・ クラス編成
- ・ 必修, 自由選択
- ・ その他

(必要があれば, この用紙の裏面も使ってください。)

フランス語

フランス語に関するアンケート結果を、以下の順に報告する。

1. はじめに
2. 集計の結果
3. 学生の声
4. まとめ
5. アンケート用紙

1. はじめに

フランス語では1回生配当の初級科目「フランス語 I」で「文法」と「実習」の2クラスを受講するのが原則である。初級にはこれ以外にインテンシヴ・コースの「8時間コース」と速習の「2時間コース」がある。

成績判定は通年で行われ、「文法」と「実習」とは別々に判定される。従って、「文法」だけの単位を落として再履修になっている学生と、「実習」だけの単位を落として再履修になっている学生と、「文法」と「実習」の両方の単位を落として再履修になっている学生がいることになる。

今回アンケート調査対象としたのは、「フランス語 I 再履修クラス」である。フランス語では初級単位を落とした学生向けに「フランス語 I 再履修クラス」を設けている。例年「文法」が4クラス、「実習」が3クラス開講されている。「フランス語 I」の単位を落とした学生は、この「フランス語 I 再履修クラス」で再履修するよう指導している。

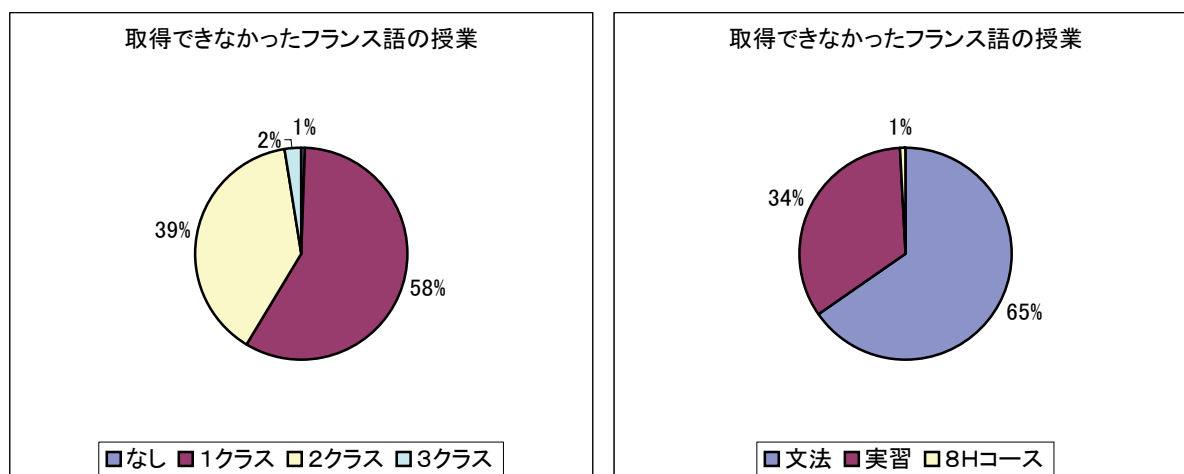
ただし、前年度に単位を落とした学生の全部が次年度に「フランス語 I 再履修クラス」に受講登録するとは限らない。

また「8時間コース」の単位を落とした学生は、次年度の「8時間コース」で再履修することが認められているので、今回の調査には含まれていない。「2時間コース」を受講するのは主として第三外国語の学生で必修単位ではないので、再履修することはないと見なしてよい。

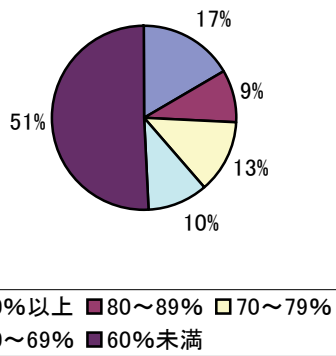
今回の調査の回答者数は164名である。そのうち2回生は114名を占める。残りの50名が3回生以上である。毎年、初級フランス語を履修する1回生は500名程度で推移しているので、約5分の1の学生が単位を落として再履修していることになる。

2. 集計の結果

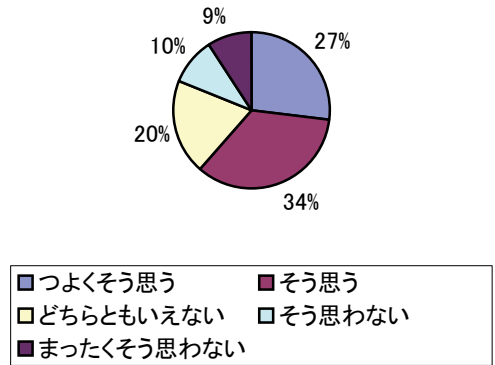
以下にアンケート用紙 Form A の質問から得られたデータを円グラフとして示す



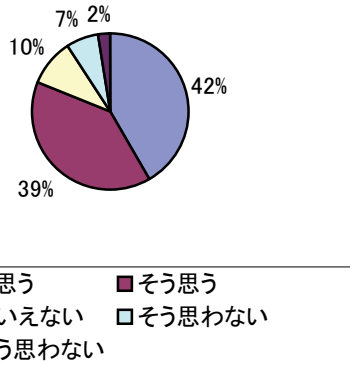
出席率(フランス語)



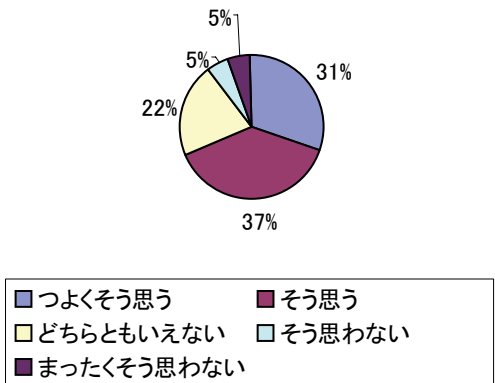
成績評価の妥当性(フランス語)



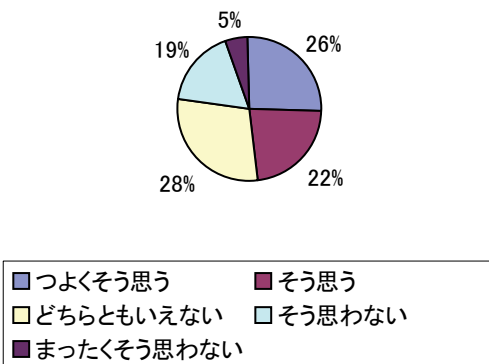
自分の努力不足(フランス語)



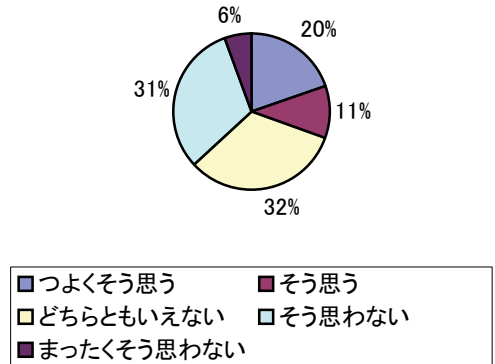
自分のフランス語力不足(フランス語)

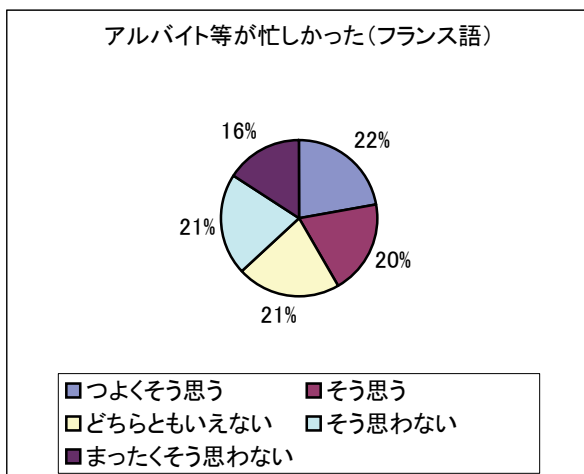
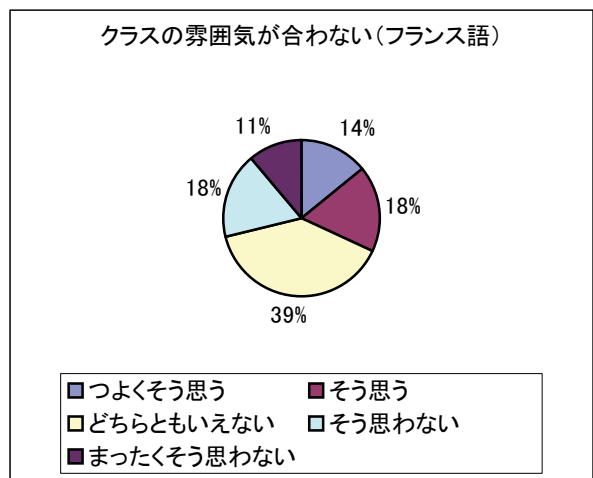
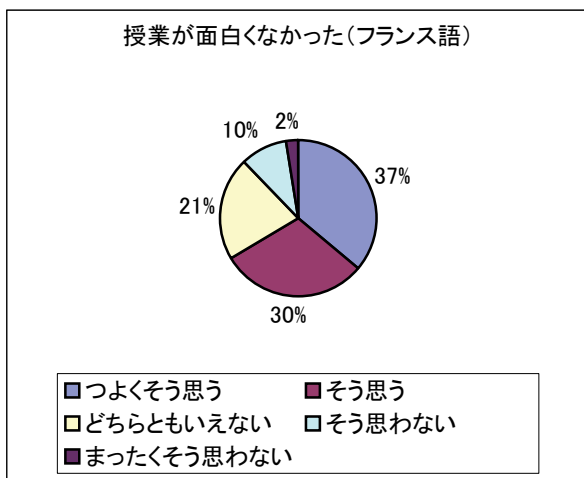
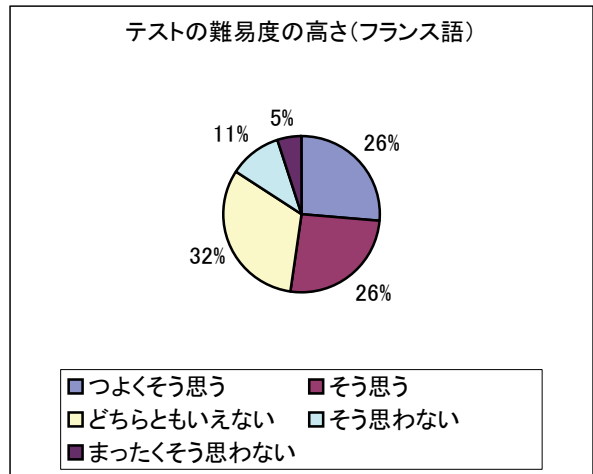
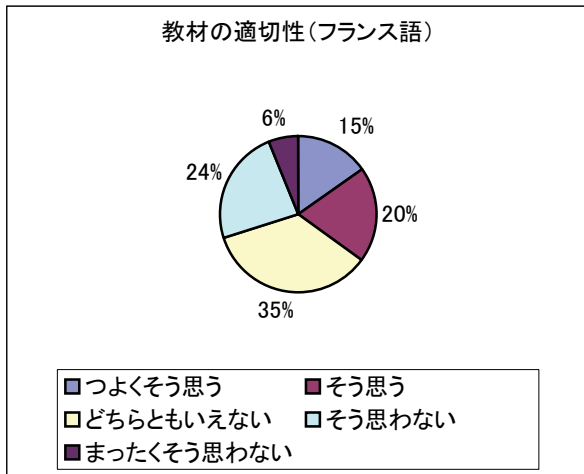


授業の進め方の工夫(フランス語)



授業に対する熱意(フランス語)





まず、取得できなかったフランス語の授業数では、1クラスという回答が58%を占め、2クラスが39%となっている。これを見ると、4割弱の学生が「文法」と「実習」の両方の単位を落としていることになる。後に見る出席率のデータを勘案すると、かなりの数の学生が新学期の授業が始まってそれほど時間が経過していない段階で、授業に定期的に出席する習慣を無くしてしまい、結果的に単位を落としているのだろうと推測される。この傾向を改善するためには、新学期の段階で学生に対して授業に出席することの重要性を強調し、教員もまた出席の点

呼を必ずするなどの方策を採る必要があると思われる。なお、3クラスという回答があるのは、中級クラスで単位が取れなかったものを交えて回答しているためであろう。

次に取得できなかった授業数だが、65%が「文法」、34%が「実習」となっている。取得できなかった授業数のデータでは、2クラスという回答が39%あったので、「文法」と「実習」の両方を取得できなかった学生がいるはずだが、これは数字に反映されていない。

数字から見ると「文法」の単位を落とした学生が多いことがわかる。「実習」はフランス人教員が担当し、半期で3回程度の小テストを実施して、その成績を合計して成績判定しており、期末試験は行っていない。出席が重視されることを学生が熟知しており、小テストを欠かさなければ単位を取得することはそれほど困難ではない。これに対して、「文法」は前期末と後期末の二回の期末試験の成績を合算して判定している。試験範囲も広く問題数も多いことから、あまり出席しなかった学生にはリカバーすることが困難である。「文法」の単位を落とした学生が多いのはこの結果であろうと推察される。

次に出席率のデータでは、90%以上出席が17%、80-89%以上出席が9%、70-79%以上出席が13%、60-69%以上出席が10%、60%未満が51%となっている。予測のとおり出席率の悪い学生が大半を占めている。外国語学習は日々の積み重ねの努力が必要であり、出席率と成績は正の相関を示すが、そのことが反映されていると思われる。

90%以上出席して単位を落としている学生が17%もいるのはある意味で驚きであるが、最近授業をしても、教員が解説している内容や板書している内容をノートに取らず、ただ漫然と座席に座っている学生が目立つようになったのと同様関係していると思われる。出席しているだけでは不十分であり、日々の予習と復習が欠かせないことを学生により周知することが必要であろう。

成績評価の妥当性については、61%の学生がおおむね妥当だと判断している。しかし、その一方では19%の学生が成績評価の方法について不満を抱いている。これをどのように読み解くかはなかなか難しい問題である。あらゆる教科において学生は一方的に成績を評価される立場にあり、そのような一方的立場に置かれることに対して潜在的な不充足感を抱くことは容易に想像できる。後で見るように、学生の声のなかには成績評価に出席を重視してほしいという意見があるが、授業に出席するのは当たり前でありそれを成績と見なすのはおかしいのではなかろうか。

次に注目されるのが、単位を落とした原因に関する自己分析である。まず自分の努力不足に原因があるとした学生が合計81%を占めているが、その一方でそれが原因ではないとした学生が19%いる。原因が自分のフランス語力不足であるとした学生は68%いるが、「どちらとも言えない」と回答した者も含めてそうではないとする学生が残りの32%を占めている。この回答を見る限り、自分の努力やフランス語力に関係のない要因、つまり制度的問題・教員の側の問題・教材やテストの実施方法などが原因であるとする者も無視できない割合で存在することになる。

教員の授業の進め方に工夫があったかという質問に対しては、48%がポジティブな回答、14%がネガティブな回答、どちらとも言えないとした者が28%いる。教員に授業に対する熱意が感じられたかという質問には、31%がポジティブな回答、37%がネガティブな回答、どちらとも言えないとした者が32%いる。授業を担当している教員に対しては、学生はかなり厳しい見方をしていると言わざるを得ない。われわれ教員の側にも反省すべき点があると思われ、これは今後の課題とすべきだろう。

次に教材の適切性に関しては、35%がポジティブな回答、30%がネガティブな回答、どちらとも言えないとした者が35%いた。フランス語の「文法」では、主として文科系の学部で京都大学フランス語教室が編纂した『新初等フランス語教本』という教材を用いているが、この教材はかなり内容が高度で進度も速いのが事実である。主として理科系の学部では別の教材を用

い、コンピュータを用いた CALL 学習を実施している。本当は教材が異なるクラスについて別々にアンケート調査を行ない、教材の適切さに対する学生の評価を調査できればよかったが、今回はそのようなきめ細かい調査が行えなかった。このため出て来た数字をどのように見るかは一概には断定できない要素が混在している。しかしおおまかに言って、学生は初めて学ぶ外国語を難しいと感じているという傾向は読み取ることができる。

これに対してテストの難易度の高さに関する質問では、52%がポジティブな回答、16%がネガティブな回答、どちらとも言えないとした者が 32%であった。半数以上の学生がテストの難易度が高すぎると感じていることになる。

次に授業が面白くなかったという質問には、67%がポジティブな回答、12%がネガティブな回答、どちらとも言えないとした者が 21%いた。これは外国語を教える教員には辛い結果である。外国語の学習には、語彙や動詞活用など記憶しなくてはならない要素が多く、練習問題なども機械的なものになりがちで、どうしても避けることのできない「面白くない」要素を含んでいる。そもそも外国語を面白おかしく教えることは至難の業であり、やむをえない結果と言うべきだろう。

次にクラスの雰囲気合わないという質問には、32%がポジティブな回答、29%がネガティブな回答、どちらとも言えないとした者が 39%いた。しかし、クラスの雰囲気が合わないというのは、非常に主観的な感じ方に関わる事柄であり、この結果から何を読み取るべきかは一概に判断することができない。

アルバイト等が忙しかったという項目には、42%がポジティブな回答、37%がネガティブな回答、どちらとも言えないとした者が 21%いた。これを見ると 4 割程度の学生がアルバイトの多忙という問題を抱えていることになる。外国語は授業への出席を最も求められる科目であり、アルバイトやクラブ活動などで欠席すると、それによる損失が非常に大きい学習内容を含んでいる。単位を落とした学生のうち 4 割程度の学生がアルバイトの多忙という問題を抱えていることは、外国語科目の単位取得に大きく影響したと考えられる。

3. 学生の声

単位を取得できなかった授業についての学生の自由記述からいくつか回答を拾ってみる。

- ・パソコンを使った授業になじめなかった。
- ・英語を打つためのキーボードでフランス語を打つにはストレスがある。また Macintosh でしかできないことにも問題がある。
- ・総合人間学部図書館でしか自習できないのが難点だ。

初級では理科系の学部を中心にパソコンを用いた CALL 授業を実施しているが、この方法について学生から若干の不満が寄せられている。しかしこれについては、19 年度からは Windows 機への移植が予定されており、実現すれば教材 CD-ROM を貸与することで自宅での学習も可能になるので、解決できる問題である。

- ・文法の教科書がわかりにくかった。
- ・白水社の教科書はとても使いにくい。文法事項を整理してほしかった。
- ・教材は解説や解答があり、より詳しいものが欲しい。
- ・教科書の説明が足りない。自習できるくらいの説明はつけるべき。単語帳も作ってほしい。

主として文科系学部で使用している『新初等フランス語教本』への不満が散見される。この教科書は教員が教室で解説することを前提に作られているので、確かに自習には向いていない。しかし授業に出席して教員の解説を聴き、ノートを取れば決して不親切な教材ではない。近年の傾向として、学生は何もかも準備して与えられることを期待しているように見受けられ、自助努力が不足しているような印象を受ける。高校までの学習や予備校の親切さを大学にも期待しているのだろうか。

『新初等フランス語教本』に関しては、現在フランス語部会で改訂の計画が進行しており、学生から寄せられた不満を改善する方向で計画されている。改訂が完成すればこのような不満もいくらかは和らげられると期待できる。

- ・〇〇先生の高圧的な態度が嫌いでした。
- ・教員は一年間で教材を終わらせなくてはならないという強迫観念によってのみ授業を進め、生徒の理解など考えているようには見えなかった。
- ・説明が不親切で修得させようという熱意があまり感じられなかった。
- ・教員の教え方が悪い。何を言っているのかさっぱりわからなかった。
- ・板書が下手でノートをまとまってくれなかった。

教員と授業の進め方についての不満である。教師に対する個人攻撃はともかくとして、教員の側と学生の側の意識のギャップがあることが読みとれる。ひとつには高校までの時間をかけた丁寧な学習指導と、大学に入ってからのもっと速く内容も高度な勉学のあいだの飛躍に学生がついていけないという現状がある。いまひとつには、教員の側にも「勉強は自分でするもの」という京大特有の伝統的な考え方があり、丁寧な指導を求める学生のニーズとのあいだに食い違いがあるようだ。

一年間という限られた時間で初級文法を終えなくてはならない大学での外国語教育においては、これはなかなか難しい問題である。質問の時間を別に設けるとか、教える内容を若干削減するとかという方法が考えられるが、これは今後の課題であろう。

次に単位が取れなかったクラスに限らず、外国語教育全般に関する質問には、次のような声が寄せられている。

- ・英語はともかく、第二外国語までクラス指定にするのはやめてほしい。
- ・通年はやめて半期にしてほしい。
- ・出席を重視してほしい。
- ・1回生にも授業と教員を選ぶ権利はある。
- ・科目や履修システムが複雑でわかりにくい。
- ・すべて自分で選べるようにしてほしい。
- ・特に身に付けるつもりもない第二外国語はもっと易しくしてほしい。
- ・理学部でも中国語やアラビア語の単位を必修として取れるようにしてほしい。
- ・第二外国語は初級だけで卒業できるようにしてほしい。
- ・英語のCALLのように、教室にしばらくられない形式の授業があつてよい。
- ・外国語の必要性を痛感する経験がないのに、熱意を持つのは難しい。
- ・フランス語の再履修のクラスが少なく、選択肢がほぼない。
- ・ひとクラスの人数を10人くらいにしてほしい。
- ・語学のせいで取りたい専門科目が取れない。
- ・6単位以上取っても卒業に必要な単位として認定してほしい。

- ・クラス指定以外の授業も取れるほうがよい。このために語学科目もシラバスを充実させてほしい。

実に様々な意見が寄せられているが、目立つのは通年をやめて半期にしてほしいという意見である。実はフランス語では旧教養部時代には初級クラスも半期で単位を認定していた。半期の方がやり直しがしやすいという配慮からである。ところが教養部改組に伴って、他の外国語と足並みを揃えて通年にしたという経緯がある。通年をやめて半期にするには、調整が必要であるが、この点は今後の課題であろう。

また初級もクラス指定ではなく選択できるようにしてほしいという意見も多く見られた。しかし現状では入学から開講まで時間がなく、選択申し込みを受け付けてクラス編成をするだけの時間的余裕がない。このため実現困難であると言わざるを得ない。

また再履修クラスの数が少ないとか、ひとクラスの人数を少なくしてほしいという意見があるが、現在投入できる人的資源や予算の関係から難しい注文である。

上には挙げなかったが、教材や授業に特に不満はなく、単位を落としたのはひとえに自分のせいであるという殊勝な声も多く見られたことを付言しておく。

4. まとめ

以上、再履修者の意見を分析してきたが、全般的に見れば単位を落とした原因は自分にあると認めている学生が多く、授業への出席率の悪い学生が再履修に回っているという傾向はほぼ予測通りと言える。

現在の制度的拘束から改善の余地のない提案は別として、寄せられた声の中には、教材の難しさ・学習時間に比べての学習内容の多さを訴える声がかなり見られたことは留意すべきであろう。これは今後の教材選定や教材開発の過程で勘案すべき意見である。また初級の内容を一年間ではなく一年半で教えている大学もあり、このような選択肢も将来は考慮すべきかもしれない。

また初級クラスのシラバス充実を求める声もあったが、この点に関しては19年度から実現する方向で計画が進行中である。

(Form A)

平成 17 年度「フランス語授業アンケート」

京都大学大学院人間・環境学研究科
フランス語部会

このアンケートは、フランス語の授業改善を目的として行なうものです。皆さんの意見は、今後の授業に活かされますので、率直にお答えください。なお、本アンケートの結果が皆さんの成績に影響することは一切ありません。

1) 所属学部 :

- | | | | |
|-----------|---------|---------|--------|
| 1. 総合人間学部 | 2. 文学部 | 3. 教育学部 | 4. 法学部 |
| 5. 経済学部 | 6. 理学部 | 7. 医学部 | 8. 薬学部 |
| 9. 工学部 | 10. 農学部 | | |

2) 学年 :

- | | | |
|---------|---------|-----------|
| 1. 2 回生 | 2. 3 回生 | 3. 4 回生以上 |
|---------|---------|-----------|

3) (a) 受講曜時限 : _____ 曜日 _____ 時限

(b) 授業科目名 : 1. 文法 2. 実習

昨年度単位を修得できなかったフランス語の授業はいくつですか。

- | | | | | |
|-------|----------|----------|----------|------------|
| 1. なし | 2. 1 クラス | 3. 2 クラス | 4. 3 クラス | 5. 4 クラス以上 |
|-------|----------|----------|----------|------------|

4) 昨年度単位を修得できなかった授業はどれですか (複数回答可)。

- | | | |
|-----------------|-----------------|----------------------|
| 1. フランス語 I (文法) | 2. フランス語 I (実習) | 3. フランス語 I (8 時間コース) |
|-----------------|-----------------|----------------------|

5) 昨年度単位を修得できなかったフランス語の授業について、該当するものをそれぞれ 1 つ選んで番号に○をつけてください (2 クラス以上未修得の場合はそのうち 1 つを任意に選んで答えてください)。

(1) その授業には、どのくらい出席しましたか。

- | | | | | |
|-------|--------|--------|--------|-------|
| 90%以上 | 80~89% | 70~79% | 60~69% | 60%未満 |
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

(2) 成績評価は妥当であったと思いますか。

- | | | | | |
|-------|------|-----------|--------|------------|
| つよく思う | そう思う | どちらともいえない | そう思わない | まったくそう思わない |
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

(3) その授業の単位を修得できなかった原因についてどのように思いますか。(それぞれについて教えてください。)

(a)自分の努力が足りなかった。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(b)自分のフランス語力が足りなかった。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(c)担当教員の授業の進め方に工夫が見られなかった。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(d)担当教員の授業に対する熱意が感じられなかった。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(e)教材が適切でなかった。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(f)テスト(あるいはレポート課題)の難易度が高すぎた。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(g)自分にとって授業が面白くなかった。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(h)クラスの雰囲気合わなかった。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(i)アルバイトや課外活動で忙しかった。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(Form B)

平成 17 年度「フランス語授業アンケート」

京都大学大学院人間・環境学研究科
フランス語部会

このアンケートは、フランス語の授業改善を目的として行なうものです。皆さんの意見は、今後の授業に活かされますので、率直にお答えください。なお、本アンケートの結果が皆さんの成績に影響することは一切ありません。

1) 所属学部 :

- | | | | |
|-----------|---------|---------|--------|
| 1. 総合人間学部 | 2. 文学部 | 3. 教育学部 | 4. 法学部 |
| 5. 経済学部 | 6. 理学部 | 7. 医学部 | 8. 薬学部 |
| 9. 工学部 | 10. 農学部 | | |

2) 学年 :

- | | | |
|---------|---------|-----------|
| 1. 2 回生 | 2. 3 回生 | 3. 4 回生以上 |
|---------|---------|-----------|

3) (a) 受講曜時限 : _____ 曜日 _____ 時限

(b) 授業科目名 : 1. 文法 2. 実習

4) 昨年度単位を修得できなかった(あるいはしなかった)授業について感想や意見を自由に述べてください。なお、次の項目を参考にしても結構です。

- ・教材の内容, 難易度, 使い方
- ・教員の熱意, 指導の仕方

5) この授業に限定せず、外国語教育全般について感想や要望を自由に述べてください。

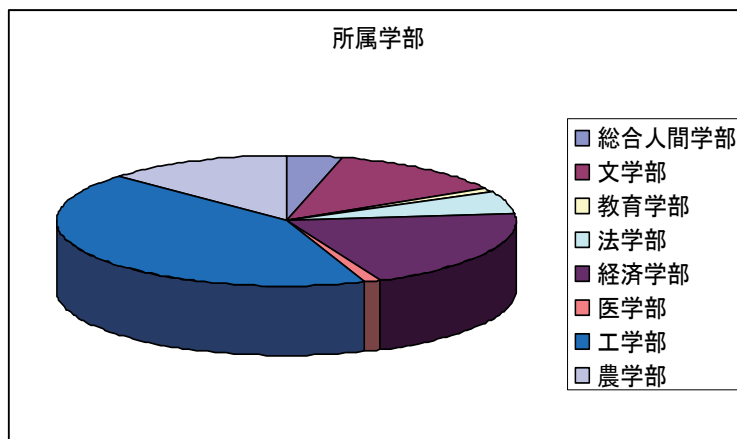
なお、次の項目を参考にしても結構です。必要なら用紙の裏も使ってください。

- ・履修期間
- ・教室, 教育設備
- ・クラス編成
- ・必修, 自由選択

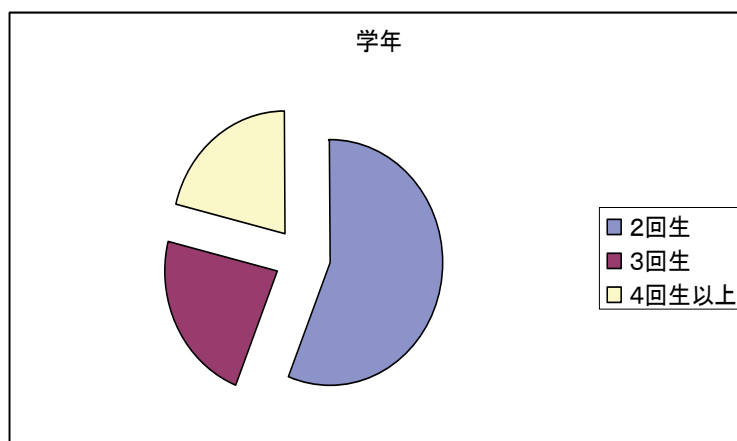
中国語

1. 集計の結果

(1) 所属学部

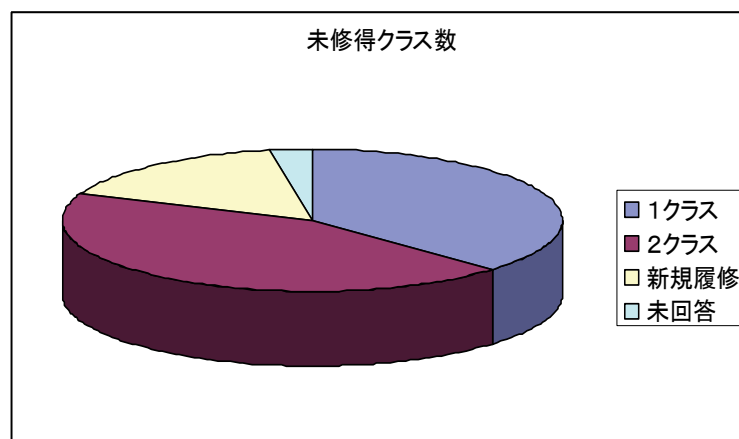


(2) 学年



(3) 現在の受講クラス 省略

(4) 未修得のクラス数



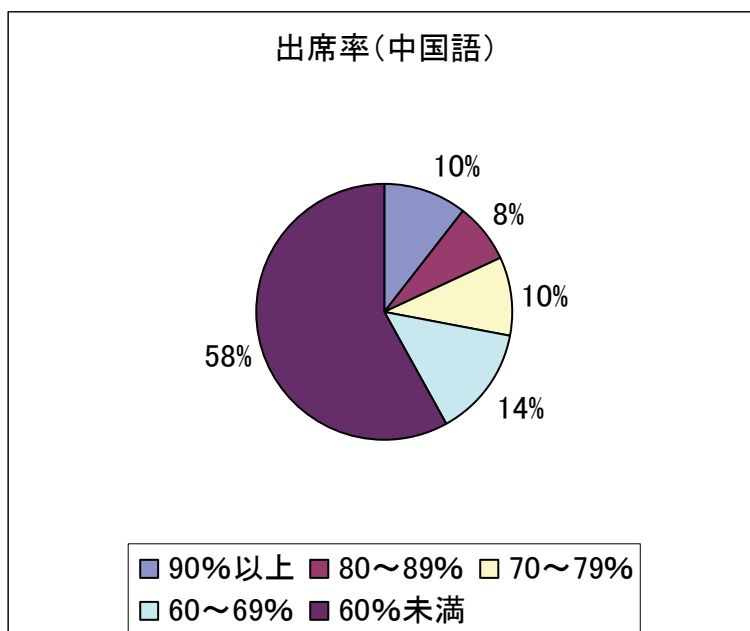
(5 未修得クラス曜時限)

省略

(6 未修得状況)

(1) その授業にはどのくらい出席しましたか。

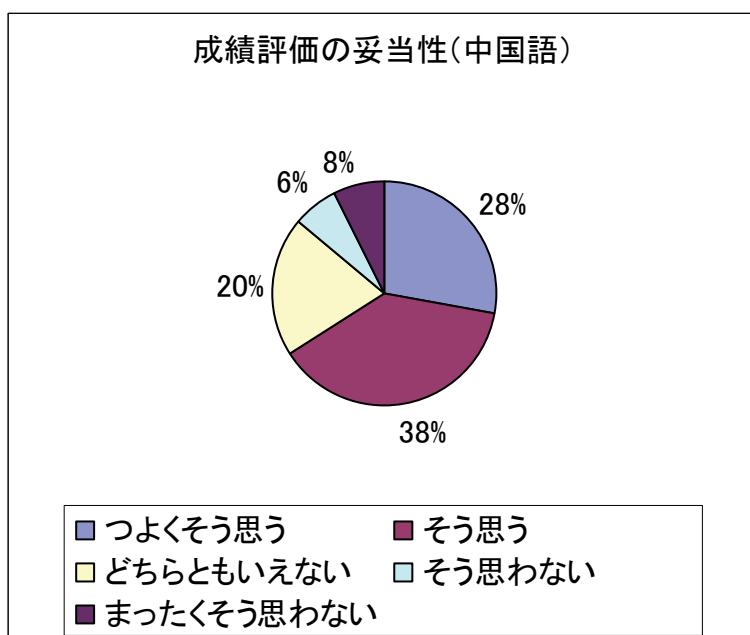
90%以上 80~89% 70~79% 60~69% 60%未満
5 4 3 2 1



出席率が60%に達しないものが回答者のうちの半数以上(58%)を占めるという結果を厳粛にうけとめる必要がある。未修得者個人それぞれの事情があるにしても、全体の出席率を向上させる方策が講じられなければならない。

(2) 成績評価は妥当であったと思いますか。

つよくそう思う 5 そう思う 4 どちらともいえない 3 そう思わない 2 まったくそう思わない 1

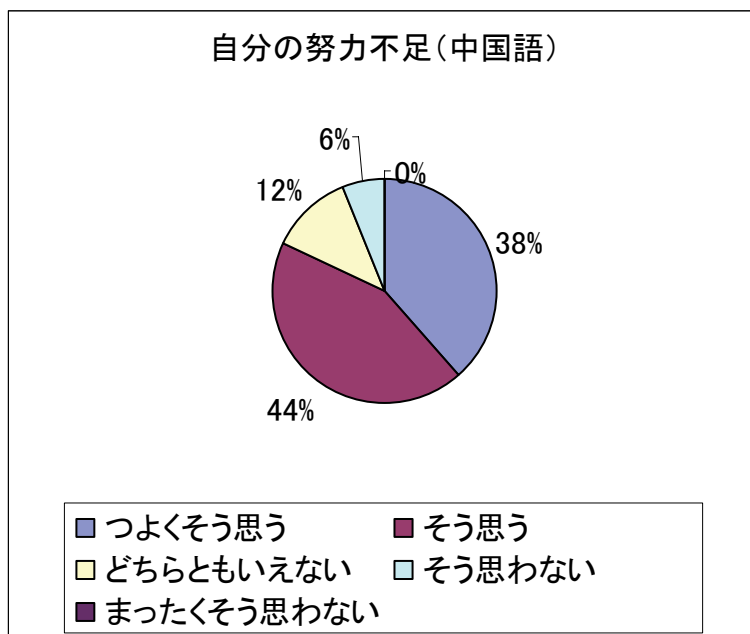


評価の妥当性については半数以上が評価をほぼ妥当と感じているという結果が現れた。評価が妥当でないと感じる者が(2と1)あわせて14%にとどまるのは、まず満足すべき結果であるといえよう。

(3) その授業の単位を修得できなかった原因についてどのように思いますか。

(a) 自分の努力が足りなかった。

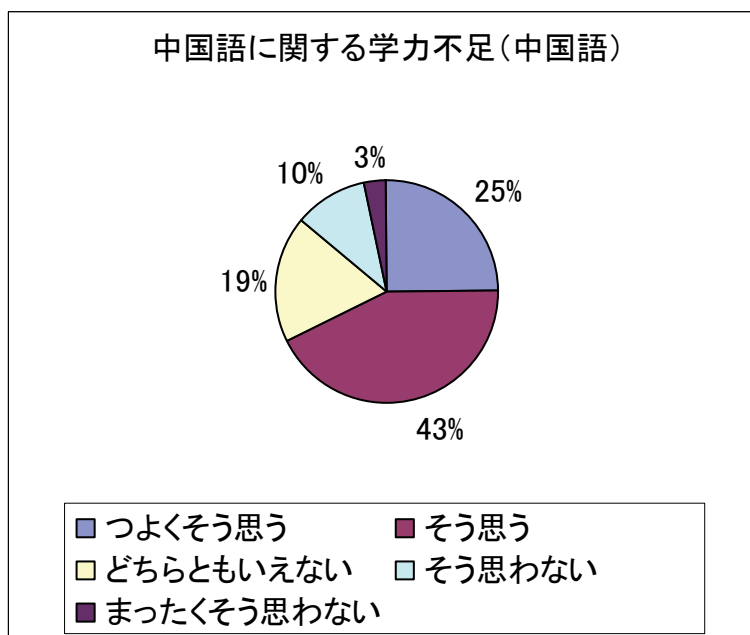
つよく思う 5 そう思う 4 どちらともいえない 3 そう思わない 2 まったくそう思わない 1



5と4の回答で80%を越えるのは、まず妥当な結果であると思われる。

(b) 中国語に関する学力が足りなかった。

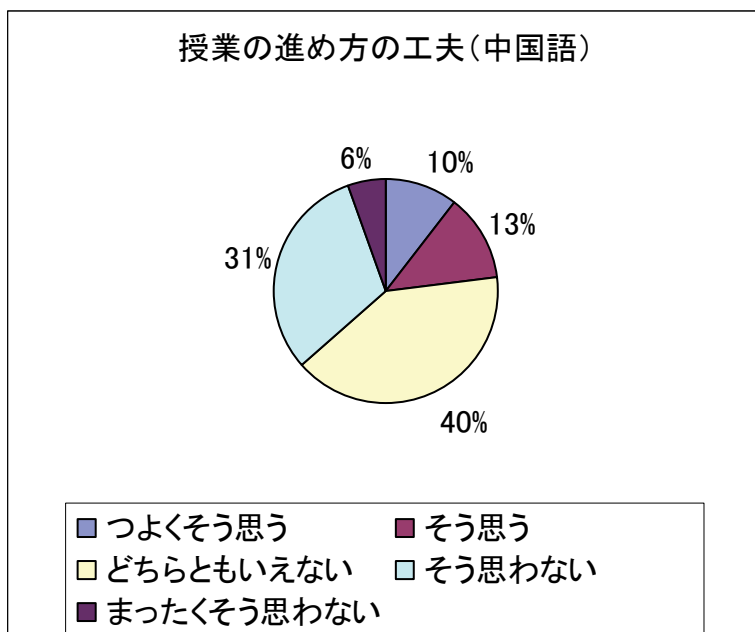
つよく思う 5 そう思う 4 どちらともいえない 3 そう思わない 2 まったくそう思わない 1



前問と同様、5と4の回答で68%に達するのは妥当な結果であるが、2を回答したものが10%いるのは、評価に対する不満が反映しているのであろう。

(c)担当教員の授業の進め方に工夫が見られなかった。

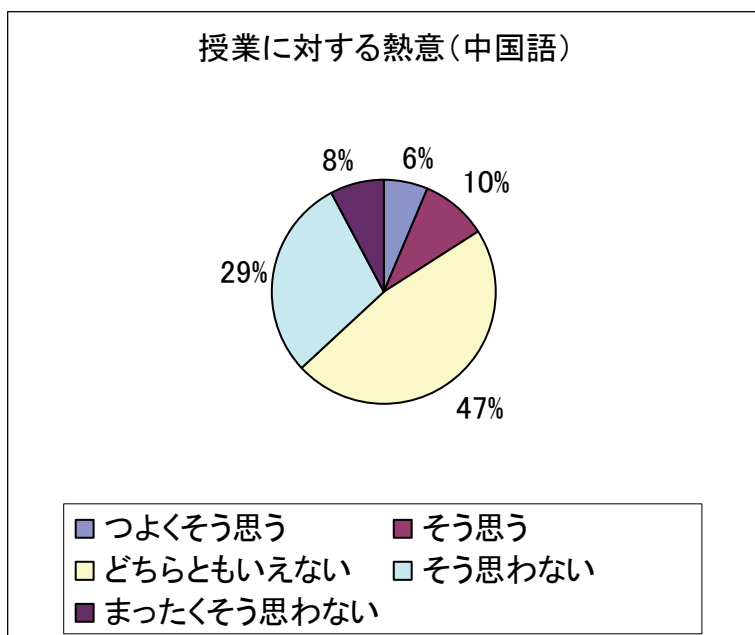
つよく思う 5 そう思う 4 どちらともいえない 3 そう思わない 2 まったくそう思わない 1



教員の工夫に関してはそれほど学生には認識されていないようである。
今後の課題とするべきデータと考える。

(d)担当教員の授業に対する熱意が感じられなかった。

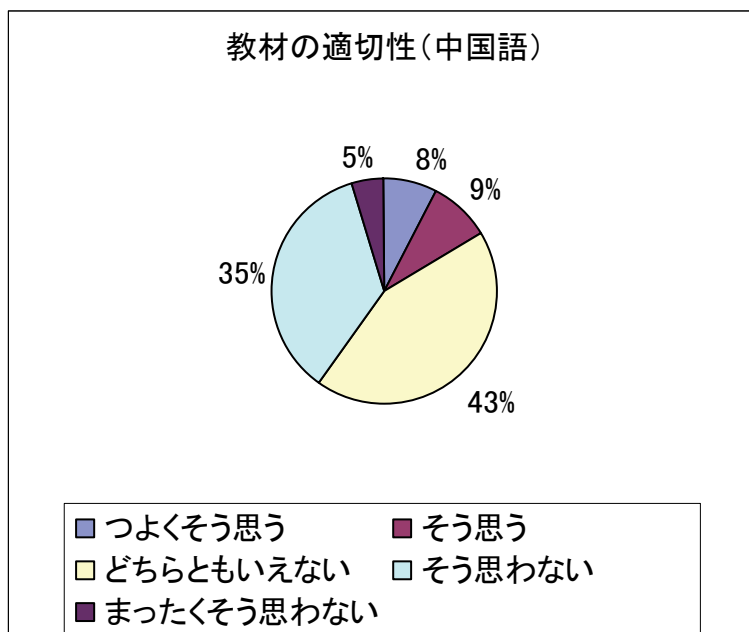
つよく思う 5 そう思う 4 どちらともいえない 3 そう思わない 2 まったくそう思わない 1



前問と同様に、教員の熱意についてもそれほど学生には認識されていないようである。
今後の課題とするべきデータと考える。

(e)教材が適切でなかった。

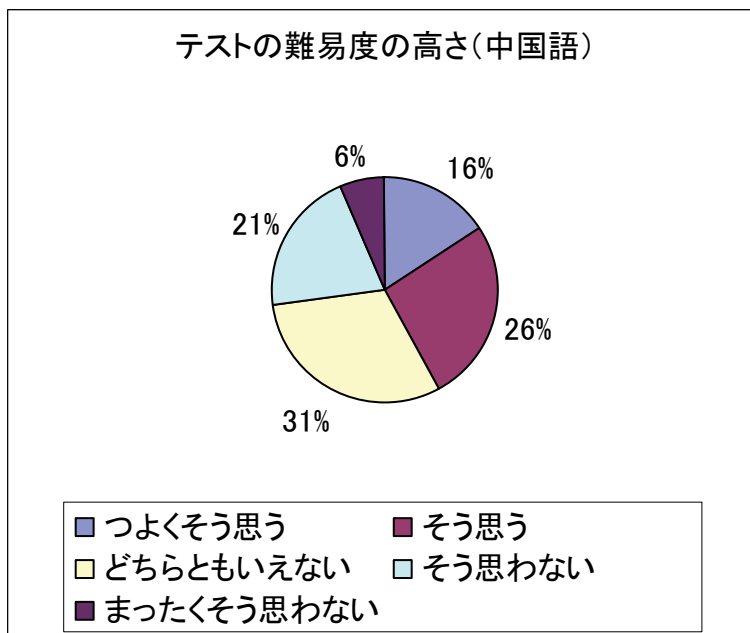
つよくそう思う 5 そう思う 4 どちらともいえない 3 そう思わない 2 まったくそう思わない 1



この設問に対しては答えにくかったのか、3が35%を占める。他の教材との比較をしようとする受講生が少ないことも、未回答(20%)の理由であるかもしれない。

(f)テストの難易度が高すぎた。

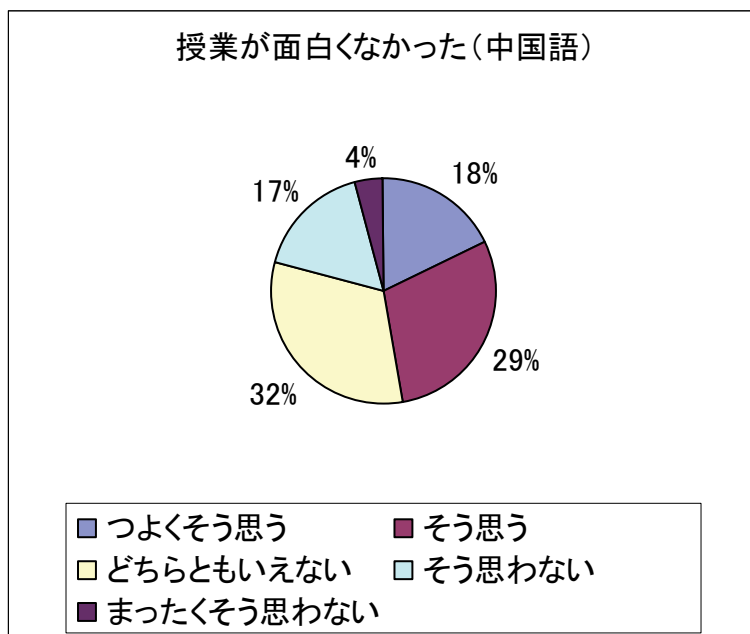
つよくそう思う 5 そう思う 4 どちらともいえない 3 そう思わない 2 まったくそう思わない 1



ほぼ均等に分布の出る設問となった。テストの難度に対する認識には個人差があつて、それぞれの受講態度と学習意欲がそこに反映されている。

(g)授業が面白く感じられなかった。

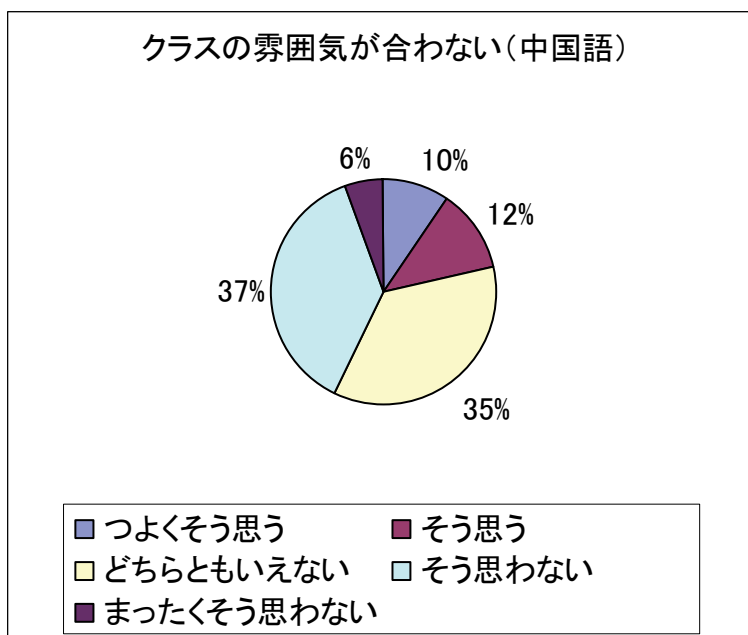
つよくそう思う 5 そう思う 4 どちらともいえない 3 そう思わない 2 まったくそう思わない 1



2と1の回答が合計で21%にとどまったことはまず満足すべき結果であろう。

(h)クラスの雰囲気が合わなかった。

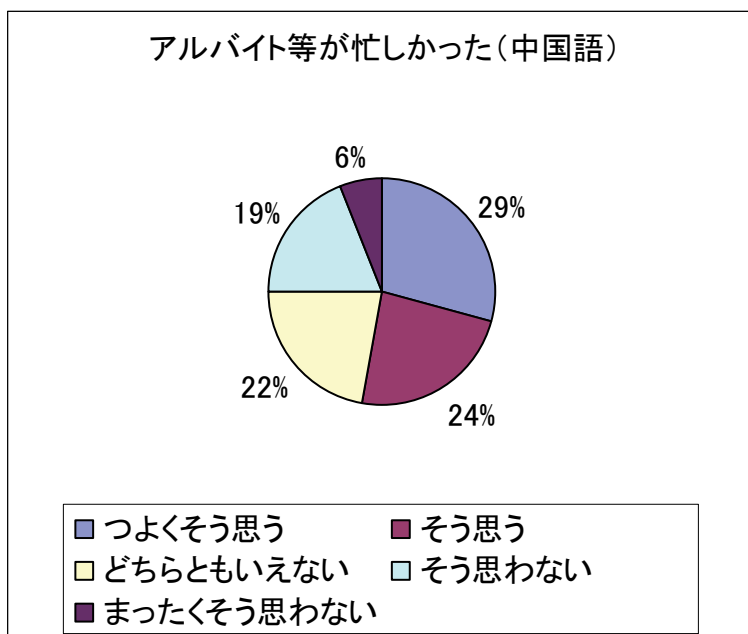
つよくそう思う 5 そう思う 4 どちらともいえない 3 そう思わない 2 まったくそう思わない 1



3と2の回答をあわせて72%に達するのは、1回生のクラスに混じることが原因かと思われるが、現状においてはいかんともしがたい状況にある。

(i) アルバイトや課外活動で忙しかった。

つよく思う 5 そう思う 4 どちらともいえない 3 そう思わない 2 まったくそう思わない 1



ほぼ均等に分布の出る設問となった。

2. 学生の声

(J) 上記項目以外に単位取得できなかった原因があれば、それを書いて下さい。
多様な回答があるが、いくつかの方向に集約できる。

1 自身の不勉強や怠惰が理由であると認めるもの

(例)

- ・ さぼっていました。 ・ 怠けグセがついていた。
- ・ がんばらなかった。 ・ 勉強しなかった。
- ・ 授業を受けてただけで自習が足りなかったと思います。
- ・ 復習が足りなかった。

とくに、1時限目の講義であることを理由にするものが目立った。

(例)

- ・ 朝早くてよく休んでしまった。
- ・ 1回休むとそのときの内容がわからないので次に出たとき先生に質問されて答えられないのが恥ずかしいため、そのままズルズル休んでしまうことになった。
- ・ 1限はしんどかったしい。 ・ 授業が午前中だった。
- ・ 朝早くて出席できなかった。 ・ 朝起きられない。
- ・ 1限だったこともあり、全く授業に出席しない学生がほとんどの中、少しでも出ようと遅刻が続いたため、悪い印象を与えてしまったと思います。
- ・ 1限に語学(選択できない)は辛いと思います。 ・ 1限は出席できません。

2 病気などを理由とするもの

(例)

- ・ 1年秋～2年秋まで体調を崩していたため受講できませんでした。
- ・ 3年間病床にいました。精神的、肉体的に現在も週に1回は医者に通っています。体調改善に努めながら、再起を期しています。どうぞ宜しくお願い致します。
- ・ 不登校に陥った。それだけである。

- ・テスト当日に風邪をひいてしまって点数がとれなかった。
- ・前期ケガをして休みすぎてしまったため、やる気がなくなってしまった。

3 クラブ活動などを理由とするもの

(例)

- ・前日に定演終了コンパ5時まで。
- ・部の試合。

4 講義内容によるとするもの

(例)

- ・教員が嫌いだったという一言につきます。
- ・なぜ落ちたのか正直わからなかったりします。
- ・教員の人間性
- ・宿題が多かった。
- ・構文さえまだ分からない時期に自己紹介を作ってピンインも覚えて発表するといった、行きすぎた授業がたまにあった。
- ・時間のわりに内容が多いと思う。

5 その他

(例)

- ・他の講義にも出なかった。
- ・専門を先に取得しようという時間割を2・3回生時に組んだ為（しかし誤算も）運が悪かった。
- ・前期テストの遅れをとりもどせなかった。
- ・登録ミス

ほとんどの指摘は受講生自身の怠惰あるいは消極性に起因するものと分析しうる。原因の分析にも幼稚な部分が多数見られ、本人の自覚をうながすしか方法がないというものも多数含まれている。

問 外国語教育制度全体についての感想：この授業に限定せず、外国語教育全般について感想や要望を自由に述べてください。

- ・2回生以上と1回生とで分けてほしい。
- ・CALLのように自習を重視するものもいいですね。ただし1回生はクラスで仲良くなる。
- ・単位落とした場合の再履修が難しいので、追試を実施してでも救済してほしい。
- ・はっきり言って英語以外の言語は必要ありません。よって自由選択にして欲しい。
- ・必修である必要はないと思う。興味があれば、自主的に履修する。
- ・Web上で抽選をするシステムには不公平さを感じる。
- ・予備登録前に試しに受講できる制度が欲しい。1回生からも自由選択制にしてほしい。前後期にわけてほしい。
- ・何で外国語の授業なんてものが存在するのか。日本語さえまともにできない学生が増えているのに、初等教育、中等教育での国語、外国語の教育そのものが難しいのではないかと。まず国語を確りと教え込むべきである。外国語なんて社会に出て使う必要に迫られてから覚えた方が良く、その方が実践的なものが身につくのではないかと。外国語さえ使えばそれで国際化できるといった誤解に基づいているのではないかと。
- ・再履修クラスが少ない。もっと自由に取れるようにしてほしい。
- ・授業時間を重ならないようにしてください。
- ・通年でも半期でもメリット・デメリットがあるのであったものを選ぶとよいと思います。
- ・履修登録が面倒くさい
- ・第二外国語の必修やめてほしい。

- ・来年以降（3回生以上）になると通年はつらそう。
- ・第二外国語を勉強しに京大に入ったのではない!! 必修やめる!!
- ・通年はやめてほしい
- ・1年目は授業時間をまったく選べないのが、難といえば難。そうする必然性も理解できるので、どうしようもありませんが。
- ・週4コマでいいと思います。
- ・中国語、再履修者だけのクラスがよかった。
- ・オーディオ機器を充実させてはどうか?
- ・クラス指定ではなく、自分で語学の時間割を決めたい。
- ・初級の外国語も半期にした方がいいと思います。
- ・中国語の発音は難しいので、ネイティブの先生の発音を聞いて練習できるのはありがたいです。
- ・外国語科目は出席を重視しすぎるといえます。独学でも、できるようになってテストで点が取れりゃあいいんじゃないですか。
- ・1回生の時通年というのが落とした時の事を考えると少し不安だった。

3 まとめ

初級クラスの単位を取得できなかった者の中には病気その他真にやむを得ない事情による者が存在することはまちがいないが、しかし圧倒的多数は勉学に対する消極性、あるいは単なる怠惰によるものであって、これらに対しては特定の外国語部会だけで対応できるものではない。また制度に関する指摘のなかに若干の傾聴すべきものも含まれるが、単なる思いつき、あるいは腹いせに近い発言もあって、提言の分析にはかなりの慎重さが必要と判断される。

(Form A)

平成 17 年度「中国語授業アンケート」

京都大学大学院人間・環境学研究所
中国語部会

このアンケートは初級中国語の授業改善を目的としておこなうものです。皆様のご意見が今後の授業に積極的に活用されますので、どうか率直にお答えください。なお本アンケートの結果が成績に影響することは一切ありませんし、個人情報外部に出ることもありません。

1) 所属学部：

- | | | | |
|-----------|---------|---------|--------|
| 1. 総合人間学部 | 2. 文学部 | 3. 教育学部 | 4. 法学部 |
| 5. 経済学部 | 6. 理学部 | 7. 医学部 | 8. 薬学部 |
| 9. 工学部 | 10. 農学部 | | |

2) 学年：

- | | | |
|--------|--------|----------|
| 1. 2回生 | 2. 3回生 | 3. 4回生以上 |
|--------|--------|----------|

3) 現在受講中のクラスについてお答えください。

(a) 受講曜時限： _____ 曜日 _____ 時限

(b) 授業科目名：

4) これまでに単位を修得できなかった初級中国語の授業はいくつですか。

- | | |
|---------|---------|
| 1. 1クラス | 2. 2クラス |
|---------|---------|

5) 昨年度単位を修得できなかった授業についてお答えください（複数回答可）。

(a) 受講曜日・時限： _____ 曜日 _____ 時限

(b) 担当教員名：

(a) 受講曜日・時限： _____ 曜日 _____ 時限

(b) 担当教員名：

6) これまでに単位を修得できなかった授業について、自分に該当するものを1つずつ選んで番号に○をつけてください（2クラス以上未修得の場合はそのうち1つを任意に選んでください。）

(2) その授業にはどのくらい出席しましたか。

90%以上	80~89%	70~79%	60~69%	60%未満
5	4	3	2	1

(2) 成績評価は妥当であったと思いますか。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(3) その授業の単位を修得できなかった原因についてどのように思いますか。

(a) 自分の努力が足りなかった。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(b) 中国語に関する学力が足りなかった。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(c) 担当教員の授業の進め方に工夫が見られなかった。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(d) 担当教員の授業に対する熱意が感じられなかった。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(e) 教材が適切でなかった。

つよくそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
---------	------	-----------	--------	------------

	5	4	3	2	1
(f) テストの難易度が高すぎた。					
つよくそう思う		そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
	5	4	3	2	1
(g) 授業が面白く感じられなかった。					
つよくそう思う		そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
	5	4	3	2	1
(h) クラスの雰囲気合わなかった。					
つよくそう思う		そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
	5	4	3	2	1
(i) アルバイトや課外活動で忙しかった。					
つよくそう思う		そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
	5	4	3	2	1
(j) 上記項目以外に単位取得できなかった原因があれば、それを書いて下さい。					

(Form B)

平成 17 年度「中国語初級授業アンケート」

京都大学大学院人間・環境学研究科
中国語部会

このアンケートは初級中国語の授業改善を目的としておこなうものです。皆様のご意見が今後の授業に積極的に活用されますので、どうか率直にお答えください。なお本アンケートの結果が成績に影響することは一切ありませんし、個人情報外部に出ることもありません。

1) 所属学部：

- | | | | |
|-----------|---------|---------|--------|
| 1. 総合人間学部 | 2. 文学部 | 3. 教育学部 | 4. 法学部 |
| 5. 経済学部 | 6. 理学部 | 7. 医学部 | 8. 薬学部 |
| 9. 工学部 | 10. 農学部 | | |

2) 学年：

- | | | |
|---------|---------|-----------|
| 1. 2 回生 | 2. 3 回生 | 3. 4 回生以上 |
|---------|---------|-----------|

3) 現在受講中のクラスについてお答えください。

(a) 受講曜時限： _____ 曜日 _____ 時限

(b) 授業科目名：

4) 昨年度単位を修得できなかった（あるいはしなかった）授業への感想：その授業について感想や意見を自由に述べてください。

5) 外国語教育制度全体についての感想：この授業に限定せず、外国語教育全般について感想や要望を自由に述べてください。なお次の項目を参考にしても結構です。

- ・履修期間 ・教室, 教育設備 ・クラス編成 ・必修, 自由選択
- (必要があれば、この用紙の裏面も使ってください。)

3. 外国語教育再構造化委員会 WG 活動記録(平成 17 年 4 月～平成 17 年 9 月)

年	月 日	WG の議題, 活動内容
2005	4 月 21 日	英語部会：単位未修得者対象アンケートの内容について
	4 月 21 日	フランス語部会：単位未修得者対象アンケートの内容について
	4 月 22 日	英語部会：英語教育の理念と目的について
	4 月 26 日	英語部会：新英語カリキュラムについて
	5 月 19 日	ドイツ語部会：今年度の履修状況について
	5 月 27 日	再構造化委員会：平成 16 年度実施の 2 回生対象アンケート及び平成 17 年度実施の単位未修得者対象アンケートについて 初修外国語のラインナップについて
	5 月 30 日	中国語部会WG：再構造化委員会における議論の概要に関する報告とアンケートに関する確認について
	6 月 2 日	英語部会：新カリキュラムにおける授業科目内容について
	6 月 9 日	ドイツ語部会主任・副主任・教務会議：来年度のカリキュラム変更について
	6 月 16 日	再構造化委員会：初修外国語(C 群科目)としての「ヘブライ語」新設の是非及びラテン語・ギリシャ語の群移動(A 群から C 群)の是非について
	6 月 23 日	ドイツ語部会懇話会：外国人教師の授業について
	6 月 30 日	英語部会：学術目的の英語を目指したカリキュラムについて
	6 月 30 日	中国語部会WG：再構造化委員会における議論の概要に関する報告と中国語部会としての意志統一確認について
	7 月 7 日	英語部会：CALL 授業の実施・運営について
	7 月 14 日	ドイツ語部会：来年度のカリキュラム変更について
	7 月 27 日	ドイツ語部会WG：教室の管理について
8 月 26 日	英語部会：来年度のシラバス作成について	

おわりに

これをもって、二回生以上の単位未修得者を対象とした、平成17年度におけるC群科目(外国語科目)に関する「学生授業アンケート」を終える。

「学生授業アンケート」の第三弾となるこの調査は、過去二回にわたって行ってきたアンケートとともに、実際本学で外国語の授業を受けている学生の生の声を聴取しようとしたものである。本アンケートが特徴とするところは、単位未修得者(その大半は再履修者)を対象とし、単位未修得という現象がいかなる原因、事情のもとに発生するのか、それをできる限り把握しようとしたことであり、その目的とするところは、他大学に比べて多いとされる単位未修得者を今後いかにして減少させてゆくか、そうした授業体制を考えてゆくことである。単位未修得は歓迎できない状況であることは自明である。これをゼロにすることは不可能であろうが、これをできるだけゼロに近づけてゆく努力は学生、教員双方にとっての責務だと言ってもよい。本アンケートはそれに向けての一步だと考える。

本報告書を纏めるに際しては、京都大学高等教育研究開発推進機構の方々、データ処理やグラフの作成等で、またしても多大なご協力を賜った。この場をお借りして御礼申し上げたい。

最後に、今回の調査に協力いただいた学生諸君に、改めて感謝の意を表する。

平成19年1月

外国語教育再構造化委員会

赤松 紀彦 (人環・中国語)	◇阿辻 哲次 (人環・中国語)	大木 充 (人環・仏語)	◇岡 真理 (人環・アラビア語)	◇奥田 敏広 (人環・独語)
◇桂山 康司 (人環・英語)	河崎 靖 (人環・独語)	◇木村 崇 (人環・露語)	水光 雅則 (高セ・英語)	高橋 義人 (人環・独語)
多賀 茂 (人環・仏語)	○田地野 彰 (高セ・英語)	壇辻 正剛 (学メ・英語)	◇東郷 雄二 (人環・仏語)	◎丹羽 隆昭 (人環・英語)
林 哲介 (高セ・共通教育)	ロバート・ファウザー (人環・英語)	丸橋 良雄 (人環・英語)	道坂 昭廣 (人環・中国語)	

◎：委員長

○：アンケート主幹

◇：部会アンケート委員

人環：人間・環境学研究科

高セ：高等教育研究開発推進センター

学メ：学術情報メディアセンター

追記：上記のうち、林哲介委員およびロバート・ファウザー委員は、平成18年3月をもって退職。